

特70

240

蒲生俊纂著

世界未來記

明治十八年四月印行 尚成堂發兌

039640-000-4

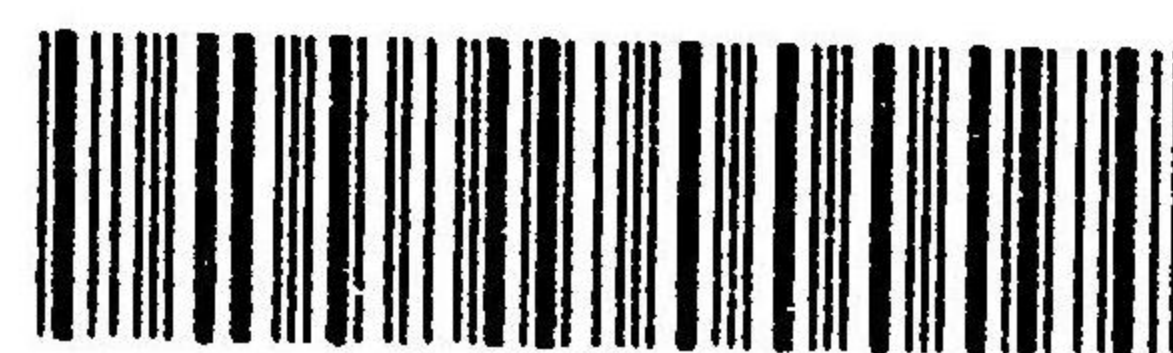
特70-240

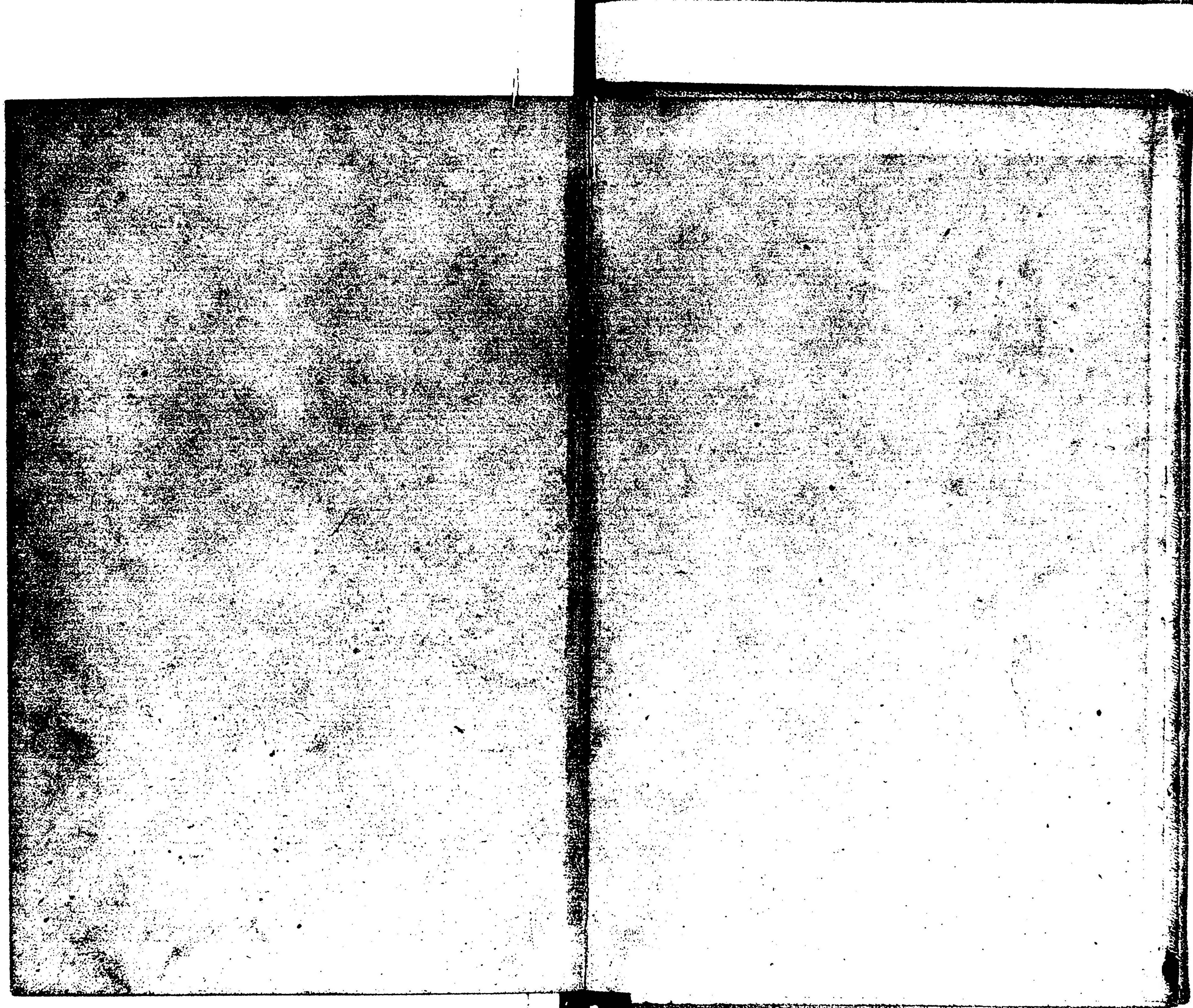
世界未來記

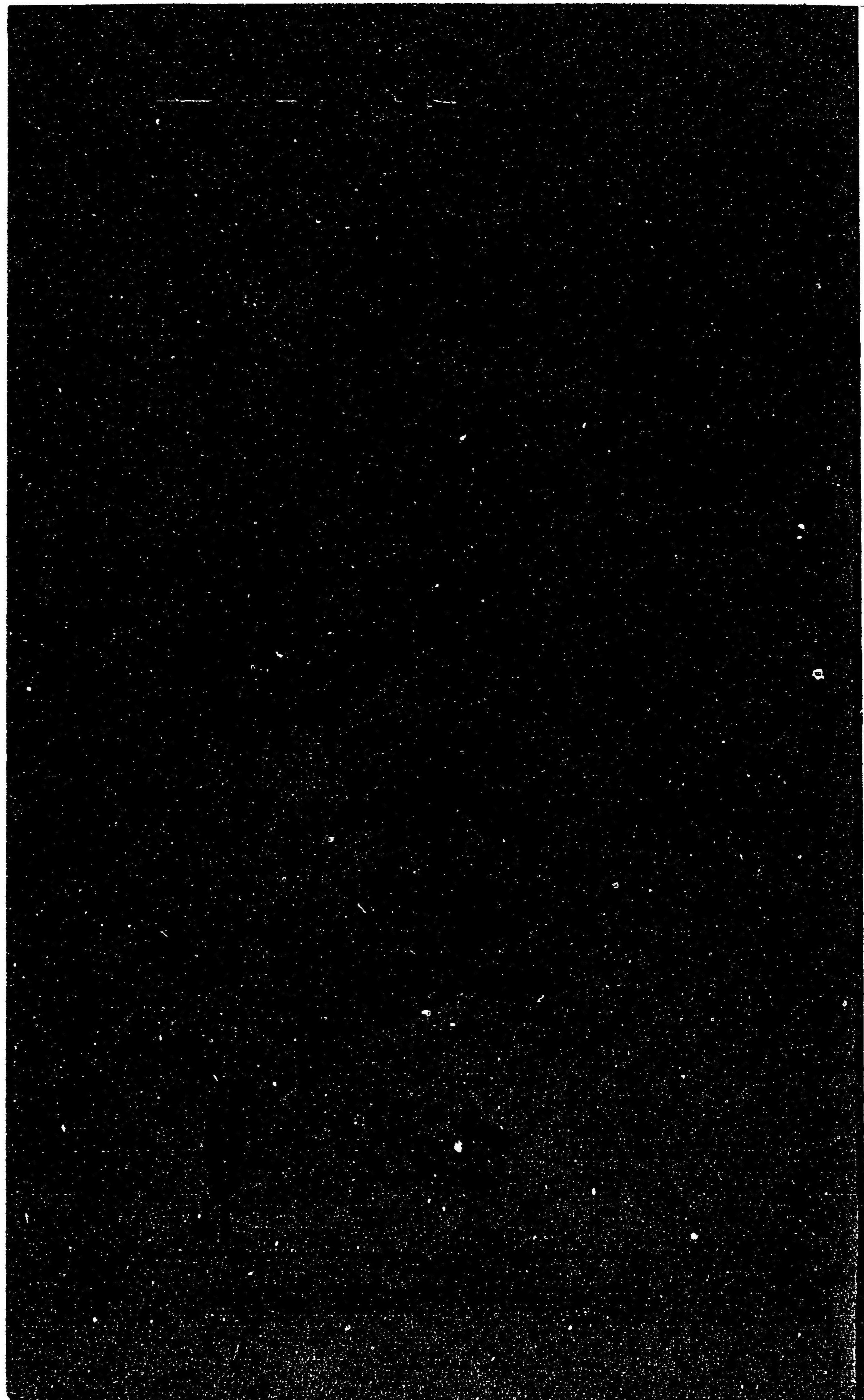
蒲生 俊/著

M18.3

BDA-0220











世界未來記序

天下氣運之變遷。猶四時之變遷也。察其所往。則可以知其
所來。今夫天之高也。星辰之遠也。苟求其故。則人猶得知其
推移變化之所由。而況於人事成敗之數乎。昔人有言曰。知
機其神乎。天下之事變。唯智者能察之於未然。唯明者能見
之於未萌。非通鬼神之情。明万物之故者。安能至此乎。瑞庵
蒲生君之著世界未來記。豈有所見時運變遷之機耶。瑞庵
加州金澤人。爲蒲生參議之後。少宦遊四方。廣交天下之士。
縉紳學士。布衣書生。畸人逸士。流竄之臣。異邦之客。苟有一

技一能者。必往而訪焉。以聞其議論爲快。最好與歐米學士遊。上下其議論。大言高論。往々驚人。嘗讀英國學士維廉太摩遜書。至曰。觀天地之現象。察既往之事蹟。以知將來進化之理。文學之務也。歎曰。自亞里斯度德沒。千五百餘年。有倍根氏。唱實驗有象之學。以一變歐洲之文學。基督以後。又千五百餘年。踏楊拜氏起。挫羅馬法王之權。以一新宇內之教法。士之立言成名。宜如此也。徒甘古人之糟粕。泥故拘舊。無異說新見。以利天下民生。則讀万卷之書。有等身之著。何益之有。乃據西國諸家之所著。而著此書。以大論天下後世政教。

風俗變遷之理。余見其所說。其思也遠。其言也微。蓋有所深見。時運之變者也。夫開關以來。天下形勢之變。未有甚於今日者也。自汽器之利。電機之用。興。萬國交通。四裔來往。紅髮碧眼。黑面赤膚。交身裸體之民。會同雜處。殆如一家。察其大勢之所趨。將舉天下萬國爲一鄉之民。可謂盛矣。然而察其變革之所由。亦惟數十年來。民智開明之所致耳。今日之變如此。將來之變果如何哉。余知有未來記之說。行之世也。自古西國多預言者。然其言大抵荒誕無據。妖妄惑民。所謂索隱行怪者。余不取也。今瑞庵之於豫言者。其論未來之事則

同其所立言者則異。蓋此書所論。皆考之天理。徵之人事。推以論天下後世之事變者也。其言適切。多可觀者。豪傑有興。亦必有取焉。豈古預言者妄誕惑世之比乎。自今後天下有變。余將以瑞庵此書驗之。

時明治十八年歲在乙酉春三月

墨山外史高橋剛識

緒言

天地ノ現象ヲ推シテ其既往ニ溯リ吾人ノ目撃スル事物ヲ究メテ將來ノ進化ヲ預知スルハ學問ノ要ニシテ余カ本編ヲ撰著スルモ亦是ニ外ナラス
夫レ人種言語宗教政事軍事等ノ如キハ未來如何ナル方嚮ヲ進化スルヤヲ預知スルハ最モ須要ナリト云フヘシ故ニ過去之形跡ヲ溯リ現在ニ及ボシ未來ヲ推論スルモ余ハ以テ余ヲ現在ノ事情ヲ目撃シ直ニ斯以テハオト云フニテオラス是ヲ以テ見願フモ率強附會ヲ論スル所カレシ事如キ多シ是ヲ余カ讀者ニ向テ注意ヲ催ス所ナリ然レ而シテ篇中ノ推論ハ一國一地方ニ限ルコトヲオラス字内ノ大勢ヲ據リテ推論セシモオトシテ或ハ一國一地方ニ由テ

然能可カラサレヨナキ能スト雖此是レ數ノ免カレサル所
 事ヲ特ニ篇中ノ記事ハ其一斑ヲ舉ケシモノニシテ百般ノ
 事物ヲ網羅詳論シタルニアラズ是レ紙數限リアル小冊子
 於テ又止マテ得サレモノナリ况ソヤ言ハ意ヲ盡サス書
 ハ言ヲ盡メレテ請フ讀者幸ニ文ヲ以テ言ヲ害セズ辭ヲ
 以テ志ヲ害セズ意ヲ以テ志ヲ逆メテ之ヲ得ルアラハ余カ
 微志亦應テ以テ密シカラサテ其意ヲ示シテハハ
 夫レ大體言ハ意ヲ盡メテ其意ヲ示シテハハ
 明治十八年五月二日
 著者識

世界系記

第二章 總論

第四期 時代ニ於テ最初人類ハ中央亞細亞ニ現ハシ後チ
 漸ク東亞ニ移リテ全世界ニ流布シ遂ニ今日ノ大數ニ至リ是

大ニカサテ其數又不可思議ナリモ今日ノ大數ニ至リ是
 地源ノ緒ヲ尋リ今日ニ至ルマテ其増殖ヲ妨害スルモノナ
 キハ地土皆人類ノ爲メニ充悞セラレ立錐ノ地ナキニ至
 然ルニ其生産ノ無數ナルト死亡ノ大早ナルト此兩
 者ハ原下生活物ノ大則タルヲ以テ鳥獸魚介ハ敢テ言ヲ待
 不ク人類ト雖此大則ノ範圍ニ免ル能ハズ僅カニ一人

増殖の多き人種は必す三人乃至五人ノ多數アルヲ要
 然し而して人類ノ性々極メテ完全ナリ關タモノニシテ賦
 命ノ強弱發達ノ有無生後初期ヨリ漸啓蒙辨理ノ域ニ經テ衰老
 神昏ノ弊ヲ發スル吾人ノ終期ニ至ルニテ其間慘然憫ムハ
 其ノ亦頗多シ蓋シ嬰兒ノ成長メテ壯年ニ至ル實ニ
 容易ナリ然レドモ如何ノトナレハ吾人ノ生レテ後六歳ニ
 至ル漸ク身丈五倍ニ亦之ニ三倍ナルニ至ルニ十六年ノ永キ
 歳月ヲ要ス然レド尚ホ吾人ノ其質ノ孱弱ナリ力爲メ四
 十年若シ之ハ五十年ニ達シテ其生ヲ畢ルノミナラス特ニ恐
 ルハキ疾病ノ襲來シテ慘害ヲ人類社會ニ及ホシ爲メ二十
 歳以下ノ少年ヲシテ現世ノ幸福ヲ剝奪シ黄泉ノ客ト變化

モシテ死者全數ノ殆メト三分ノ一ニ當レリ何ソ其
 無情ナル詩人ノ想像モ得テ之ヲ名狀スルヲ能ハサルヘシ
 然レ之レカ心力ヲ勞セシムルニ甚シキニ至テハ亦驚クニ
 耐メテ見看ヲ吾人ノ眼ニ今日マテ發見シタル事蹟ハ歴史
 上ニ載ル乎下ニシテ掩ハント欲スルモ得ハサルナリ現
 シヤシクアツルハ印刷術ニウツリシ引力法リットノ蒸
 氣力クテアルニ大法ニシテ又天体發明又非リテ、
 亦大ニ電話機ニ於テカ難シ是ニ由テ今日吾人カ享タル
 所ノ利益ニ蓋シ小少ニテラサレタシト雖モ過去ニ於テ先
 人ノ講究ニ由ル所ニ未ダ以テ完全ノモノト云フ能ハス然
 レモ現今稱道スル所ノ理論ハ先人ノ業ニテハ講究シタル
 殘餘ニ外ナラズモ多シ豈ニ夫レ焉ニ後人カ先人ニ及

進路ヲ一定シ勉ムルキニ事業是レナリ十九世紀ノ今日ニ
 存在スル吾人ノ責任モ重且ツ大ナリト云フ可シ
 然リ而シテ深恩熟考以テ既往ヲ回顧スルニ紀元以前西洋
 文明ノ希臘一國ニ止マテ夫レ埃及、
 波斯、
 大軍ヲ舉テ希臘全土ヲ蹂躪シ殆ムル西洋文明ヲ萌芽ニ滅
 盡スルヲソトシテ然レニ當時希臘ニハ智謀ニ富ミ軍器
 破リテ是レヨリ以來東洋漸ク衰頹シテ西洋ニ進歩ハ駸
 々乎トシテ旭日ノ昇ル如ク次ニ歷山王大軍ヲ引率シテ
 東洋ニ攻入テ又紀元前後ニ跨リ羅馬國起リ東洋諸洲中或
 長ク遠ク隸屬スルモノアリテ中世東洋ヨリ大舉ニ西

洋ニ征伐シテ下欲シテ十餘世或ハ西班牙ニ止マテ佛
 蘭西ニ入リテ能ハス魯西亞地方ニ進入ス下雖モ歐洲全土
 ヲ征服スルニ至ラズ其間西洋ハ早ク已テ一學術機械ノ精
 巧ヲ究テ奈積歲第一世ニ至テ兵刃前古ニ卓絶シ又東埃及
 希臘等ノ國ニテ莫クハ東印度諸國ニ西洋諸國或ハ亞
 米利加ニ地ヲ墾シ或ハ澳洲ニ殖民スルニ其威風ハ格モ
 地球ヲ全面ニ延蔓シテ下大ニ壯ク呈シテ盛ニ稱揚シ
 而シテ當時ニ無知ノ蠻民至國ニ流入シテ亂暴ヲ行停止ス
 ル所ナク其物ヲ悉ク擧テ蠻民ヲ爲メテ滅盡セラレシトス
 是時ニ當リ獨リ能ク激流ヲ測ル者ハ基督ノ聖民ニシテ
 其和女之ヲ諭スル天地間一ノ長ルルキ者アズテ以テシ邦
 主ノ治平蠻民ノ風化ヲ致セシ者皆之レ基督教ノ力ニ由テ

以來其法皇ハ神子ノ代理ナル威權ヲ以テ一兵ヲ要セズ
 鐵ヲ用ヒスル當時ノ帝王諸侯伯夫使フテ恰モ手ノ指
 於ケルカ如シ其甚キハ獨逸帝ハ第四世オシテ三日
 三夜雪中ニ立タシメテ至ル然ルニ第十六世紀ニ至リ
 此ノ時ニ至ルニ徒出テ宗教上ノ改革ヲ唱ヘ奉教自由
 社會主義ノ主張シテ自由ヲ渴望スル人心ヲ注キヨリ宗教
 社會ノ變ニシテ恰モ好シ印刷術ノ發明アリテ書籍ハ貴
 人ノ事有クテ提挾ヲ破毀シテ學問ノ進步ヲ助ケ貧賤ノ樵
 夫亦先哲ノ書ヲ讀ム至ル而シテ心ヲ改メテ嬰兒ノ如
 クオラスルハ天國ニ入ルコトを得シト云ヘル聖書ノ確言
 英國ノ大家ハ一ヨリ學問ニ適用シテヨリ始メテ世界ノ成

立知知識道徳ノ別ナク學問ニ於テモ宗教ニ於テモ處世ノ
 要訣唯私意ヲ極ケテ天意ニ屈スルヲ問フテ發明シ
 是ニ以テ國公ヲ天然ニ服從セシメテ道自カニ屈服
 又佛ニ對シテ亦然ラズ有形學上ノ水變革ヲナシ
 驗破スルニ嗚呼太有以還事物ノ變遷實ニ故學ニ違フ
 先人ノ後人ニ與テ利益ハ真ニ巨大ニシテ此功勞先
 人ニ向テ謝サズルハ可ク其功勞ハ人ノ功勞ニシテ
 曰ク學問ノ要ハ天地ノ現狀ヲ推シテ其既往ニ溯リ吾人
 目擊スル事物ヲ究メテ將來ノ進化ヲ預知スルニ在リト是
 ナリ以テ十九世紀ノ今日ニ存在スル吾人ハ又後人ニ向テ利

輝き發天ルに至りては、雖も未だ眞實ノ光輝ヲ發スルモノ
 其勢力ヲ得サルニ似たり
 蒼々タル天廣夫ナル地モ亦始終同一ノ者ニアラス未來形
 狀ニ變シテ亡滅ニ至ルヤ必セリヤ、砂井ヨヤム、タムソソ
 其勢力ノ散布説ヨリ、若キ理ヲ推シ終ニ天地ノ停滯亡滅ニ
 至ルヲ預言セリ此ノ限リアル社會ニ生存スル吾人モ亦死
 亡ニ赴カズシテ早晩去リテ行クニキ所ニ赴カサルムカラテ
 其者下ニシテ人類ハ短縮ナリ生存ヲ保持シテ社會ヲ組織シ
 其如何ナリ義務ト如何ナル責任ト有スルモソナル中是
 ヲ余ニ告ガシ俟テスルニ世ノ能ク知ル所ナリト雖も蠻野ノ
 民間多ク興味ニシテ凡百ノ事舉テ天然ニ付テ敢テ之ヲ防
 禦スル事無クシテ其文明ヲ民ハ然ラズ入カテ以テ天然

防禦無クシテ改良進歩ノ路ニ熱心ナル者少ク夫レ凡百
 ノ事悉ク天然ニ付テ可ナリトモ、カ果シテ然ラム人類
 社會ハ常ニ情慾ニ壓セテ腕力ヲ制セラント少シクモ人
 類ノ美類ニ對シテ地位ニ違フニ付テ得ルカヲナルシミナラズ
 若シテ社會ノ秩序落シテ組織錯亂スル此ノ樂シキ
 社會ニ非難シテ世トナルハ、故ニ未來ニ運用ヲ望ミ之ヲ
 如何ニシテ防禦スル其準備ヲ為シ所以ニシテ、人類ハ須要
 學ニ進ミテ無益ナラズ、人類ニ對シテ
 第二章 人種及言語ノ未來ヲ論ス
 人類ニ對シテ、最弱者生キ最弱者死ストハ、チヤトル
 大ニ、チヤトルノ種類本原論ニ揭載シテ生物學ニ新福音ト
 稱シ、チヤトルノ民カ是天理ヲ適用シテ成功如何ニ就テ

牛馬同演説トキ一非天下雖無植物界動物界及人間界於
 又疑マ爾アサハ事事實ニ其具之生物ノ進化社會ノ
 進歩トモ相違ナシ又原因ナル諸國ヲ疑テ容ルキ
 フラス
 學術ニ至ル程度據ルハ最初人類ハ第四期ノ時代ニ於テ中
 央亞細亞熱帶現ニ漸ク亞非利加熱帶殖次ニ歐羅巴亞
 細亞亞非利加ニ移リ白人ノ初ニ來此地而來リ住居セ
 今去ル僅カク四百餘年猶然然ニ而テ人類ハ
 只一貴ノ夫婦ニ起ル後万国分レ種類ヲ異ニス
 亞細亞熱帶初ニ亞細亞西部漸クイタリ及ヒ
 亞非利加熱帶近傍ニ起ルニ列然ニ然ルニ彼ノ有名
 諸國博士ニ其説ハ之ヲ排撃シテ曰ク全世界人類ハ

始祖ハ必スシモ唯一ニ歸セシテ數多ノ人種各其本元固
 有ノ始祖アリト又白ク世界天然史ヲ講究セハ愈ヨ人類ハ
 一始祖ヨリ夥多ノ裔孫ニ別カレタルノ理ナク恰モ蜜蜂ノ
 各々獨立ノ始祖ヨリ出テ諸處ニ分聚シテ巢房ヲ造レルカ
 如ク人類ノ今日天然住居スル國土ニ於テハ各本元獨立ノ
 始祖ナルムシト又千七百年代ニ至リ舊約全書創世記ヲ駁
 スルモノアリ曰ク世界ノ人衆シ數億方ノ生靈アリ彼ノ舊
 約全書ニ載スル所ノアダムイブハ奈何ニ神聖力ヲ保有レ
 大ニ子々孫々ヲ蕃殖シタルニモセヨ只其夫妻一偶ヨリス
 ク巨多ノ後裔ヲ得ルハ徹頭徹尾ナシ得可カラサルコトナ
 リト云ヘリ然レモ彼ノ高名ナルユイラルバ之ヲ貶斥シテ
 曰ク譬ヒ僅カク一偶ノ祖先ヨリ出ツルモ延後廣嗣數千年

久シキキ経ハ遂ヒニ巨多無量ノ人員トナルハ理ノ應サ
 然ルモノニシテ容易キコトナリト主張セリ若シエカシ
 等カ主張スル所ノ説ヲシテ信ナリトスルハ余ハ其確
 實ナル証跡ヲ發見スルニ苦ムナリ
 チヤールス、ダールウ井ノ説ニ據レハ人類ハ猿猴ノ一族ヨ
 リ進化シタリト然レハ學術ノ示ス所ヲ以テスレハ最下等
 ノ猿猴ヨリ最高等ノ猿猴ニ進化スルモ始終只猿猴ノミヨ
 止マリテ少シクモ人類ニ近クイナシ又人類ノ墮落モ之レ
 等シク其墮落奈何ニ甚シキモ常ニ人ニシテ聊モ猿猴ニ
 近クイナシ天下何レノ所何レノ時代ニ於ケルモ人ハ恒ニ
 人ニシテ決シテ猿猴ニ墮落シタルコトナシ是レ人類ハ猿猴
 ノ一族ニシテ進化シタリト云フ能ハサルノ事實ナリ蓋シ歐

洲ノ人種ハ之ヲ総稱シテ白人種又高加索奄ト云フ亞細亞
 ノ人種ヲ黃色人種又タ蒙古利奄ト云フ而シテ高加索奄人
 種ヲ大別シテ之ヲ三トス一チ「チヨトドニク」所謂日耳曼人種
 トス此人種ハ歐洲ノ中部北部ニ蔓延ス日耳曼、澳地利、荷蘭
 白耳義、英吉利、瑞典、那威、噠馬、瑞士東方ノ民ナリ其容貌ハ白
 膚長大ニシテ黃髮深目ナリニテ羅馬人種トス歐洲ノ南部
 及ヒ西部ニ蔓延ス佛蘭西、西班牙、葡萄牙及ヒ瑞士西部ノ民
 ニシテ多クハ髮黒ナシテ膚色ハ銅ノ如ク脛幹長大ナラサ
 ルモノアリニテ「メラウニク」人種トス歐洲ノ東部ニ蕃殖ス
 露西亞、彼蘭土、ノ北部希臘及ヒ埃地利ニ散在スル「ホヘミヤ」
 「モラビヤ」人は是レナリ此人種ハ開化ニ鈍シ其ノ他土耳其、匈
 加牙及ヒ露西亞ノ南部ニハ蒙古里奄人種ハ錯ニ日耳曼人

種ハ當時最モ歐洲ニ勢力ヲ得日耳曼、埃地利ノ王公ヨリ露
 西亞、瑞典、噠馬、荷蘭、白耳義、英吉利、葡萄牙、希臘等皆此人種ノ
 家族ニテ瓜分ヲ運テ特ニ貴族門地ハ此人種ニ多シ佛蘭西
 伊太利、西班牙ノ三國ハ猶羅甸族ナリ「スラヴォック」人種ニテ
 國君ノ稱アルモノハメクレンブルク一國アルノミ黃色人
 種又蒙古里庵ハ亞細亞地方へ延蔓シテ頗フル數多ノ人員
 トナレリ然レモ此人種ハ常ニ多クハ壓制ノ下ニ生息シテ
 獨立ノ氣性ニ乏シク漸ク今日西洋ノ文物ヲ採用シテ進歩
 ノ路ニ傾向セリ未レ世界ニ生物餘リアリテ食物足テサル
 ヲリ生物互ニ死活ヲ競ヒ爲メニ劣弱ナルモノハ滅尽シ優
 強ナルモノ生存スルニ至ル之ヲ生存競争ト云フ达尔ウ井
 ノ人所謂自然淘汰スベンセルノ所謂適種生存即チ是レナ

故ニ人種ノ發育蕃殖スルハ生活物ヲ以テ制限セラレ決
 シテ之ヲ踏ヘテ増殖スル能ハサルモノニシテ即チ五人中
 三人ヲ滅シテ二人ヲ存スルノ有様ヲナセリ
 抑モ人間界ニ在テ最モ生存ノ競争ニ勝利ヲ得ルモノハ決
 シテ腕力ノミ、逞シキ者ニテアラズ智徳ノ兩者之ニ伴ハサル
 事ハ夫抵腕力ハ智徳ノ勢力ニ制セラレテ以テ常トナセリ
 故ニ生物界ノ變動ニ至テハ吾人ノ輕々視スヘカラサルノ
 事實アリ何ントナレハ歐洲人即チ高加索奄人種ハ跡幹強
 大ニシテ智徳兩ツチカラ又能ク之ニ適セリ此ヲ以テ方今
 ノ世誰カ西洋文明ノ人民カ半開ノ國又ハ野蠻ノ地ニ殖民
 シテ殆ンド其地ヲ押領シ恰モ土人ヲ追逐スルカ如キノ實
 狀アルヲ知ラシヤ試ニ見ヨ英人ノ初メテスマニヤニ

殖民セシ時土人ハ凡ソ二万人餘アリシモ今ヤ全ク其苗裔
 ナ存セサルニ至リシ所以ノモノハ或ハ互ニ競ヒ又タハ英
 人ト争ヒ遂ニ英人ニ降ルニ及ヒ英國ノ殖民擧ケテ此人種
 ノ隱伏スル所ヲ探リ漸ク百二十人ノ頭數ヲ見出シ皆之ヲ
 フリンドルニ移セリ此嶋ハ濠洲トタズマニヤノ間ニ
 アリテ健康ニ害アル所ニモアラサリシカ氣候風土等生地
 ヨリ異ナルニ據ルカタズマニヤ人種ハ漸々其健康ヲ失ヒ
 千八百三十四年ニハ男四十七人女四十八人兒十六人総ヘ
 テ百十一人ニ減少シ千八百三十五年ニハ僅カニ百人トナ
 ルニ至リシガハタズマニヤ人以為ク此儘ニテ打チ過キナ
 ハ遂ニ滅亡スルノ外ナク思フニ土地ノ惡質ニ因ルヘク移
 轉セハ必ズス滅亡ヲ免カルハナラント哀レコモタズマニ

ヤ人ノ思惟スルニ隨ヒ千八百四十七年之ヲタズマニヤノ
 南部ニ移シタリ當時男十四人女二十二人兒十人アリシカ
 尙ホ減少止マズシテ疾病死亡相ヒ踵キ千八百六十四年ニ
 ハ憫ムヘシ男一人老婦三人存セシト雖モ男モ亦千八百六
 十九年ニ死去セシヲ以テ到底子孫ヲ遺シ永ク祖先ノ土地
 ナ有スルノ望ナキヲ歎息スルノミ特ニ減少ノ原因ハ疾病
 死去ニ據ルト雖モ婦人ノ懷妊カ減少シタルニ基クテ多シ
 其未タ九人ノ女ヲ存セシ時子ヲ生ミタルハ僅カニ二人ニ
 シテ二人ノ生子合セテ三人ニ過キサリシト云フ又新ゼー
 ラントノ入民モ遂ニ其子孫消滅シテ土地ハ全ク他人ノ行
 トナルコトヲ歎キ濠洲ノ土人モ亦タ漸ク消亡セントス
 ルノ勢ヒアリ實ニ南洋諸島野蠻人ノ消亡スル景況ハ今日

於テ最モ著シキモノナリ其新ゼトラントノ「メナリ」人種ハ千八百五十八年ニ至ルマテ十四年間ニ人員ノ減少セシハ百人毎ニ十九人四分二厘ノ比例ナリシト布哇國ノ如キクック氏ノ發見セシキハ人員三十万餘アリシモ千八百七十二年ニ至リ五万五千五百三十人ニ減少セリ我カ日本國北海道土人即チ「アイノ」人種ノ如キモ漸々滅滅スルノ有様ヲ呈セリ是ニ由テ之ヲ觀レハ半開野蠻人種ノ減少滅亡ノ期ニ迫ルハ掩フ可カラザルノ事實ナリ果シテ然ラハ未來歐洲高加索奄人種ト亞細亞蒙古里奄人種トノ生存競争ノ奈何ニ就テハ最モ今日ニ於テ須要ノ問題ニシテ忽諸ニ附スルニ至ラス何ソトナレハ今代ハ港門ヲ鎖シテ東西兩洋ノ交通ヲ斷絶スルノ時ニアラス故ニ混婚淆姻モ亦タ以テ

制スルヲホシハサレバ此ニ又驚クヘキ所ノモノアリ歐洲產ノ動物植物ノ印度、濠太利及ヒ新ゼトラントニ愈ニ繁殖シテ土產ノ動物植物ヲ壓倒スルノ勢ヒアリ蓋シ進化論ノ理ニ據ルハ大陸ニ生産シタル動物植物ハ其種類甚ク多クシテ生存ノ競争亦激烈ナリ故ニ大陸ニアリテハ必ラス優等ノ生物ニシテ勝ヲ制スルモノニアラザレバ生存スルコトアラハサルヲ以テナリ歐洲人ト歐洲產ノ動物植物ハ風氣剛勁ノ土地ニ生育シ數十年間競争ニ鍛鍊シタルヲ以テ今日印度、濠太利及ヒ新ゼトラントノ如キ小陸及ヒ島嶼ニ來テ能ク其土生ノ人種及ヒ動物植物ヲ壓倒スル所以ナリ夫レ洋ノ東西ヲ問ハズ人種ノ何タルヲ論セス人類ノ蕃殖ニ不悅ハシキ社會ヲナス所以ノモノハ是レ婚姻ニヨラサ

ルハナシ試ミニ思ヘ國人獨居ノ風流行シテ生殖ノ源衰
 ルキハ不幸是レヨリ甚シキハナシ苟クモ然ラハ壯年ノ男
 女各正當ノ婚期ヲ棄テ、獨身者トナリ我カ得ル所ノ利益
 ハ悉ク之ヲ自己一人ノ慾ニ供シ輕裘美食モ頗フル満足ス
 ルコトヲ得ス配偶ノ禮ヲナシ世帯ヲ維持スルノ義務艱難ヲ
 避ク所謂一擲千金豪奢ノ風ヲ生シ賣淫者ヲ繁昌セシメテ
 私生兒ヲ増加スルニ至ルメシ抑モ私生兒ノ惡根ハ住人ニ
 慘害ヲ遺傳シ其死亡數ハ常ニ甚ク高点ニアルノミナラス
 人類中最モ道德ノ薄弱ナルモノニシテ多クハ無産無業ノ
 補充人トナリ警察及ヒ刑法ノ手ニ係リ集治檻懲役場ヲ蕃
 殖シ人民ノ風俗ヲ敗壞シ其罪漸ク尊キ夫婦ノ室堂ヲ浸潤
 シ之レカ土地ヲ穿テ邦國ノ基礎ヲ震ヒ夫婦ノ離合ヲ輕易

ナラシム豈ニ是レ恐レサル可ケンヤ
 夫レ然ラ然ルカ故ニ婚姻ハ男女ノ一時合意シテ色慾ヲ滿
 足セシムル爲メノミニアラズ何ゾトナレハ母ノ弱ハ父ノ
 カニアラサレハ其子ヲ養育スルニ足ラス父モ亦母ノ慈愛
 ト繁細ノ勞トニ頼ラサレハ其子女ヲ生長セシムルヲ能ハ
 ス是レ婚姻ハ際限ナクシテ生涯ヲ期スル所以ナリ况ンヤ
 婚姻ハ單ニ男女ノ對偶ニ止マラス隨テ家ヲ設クヘク家具
 ヲ整フヘク社會ノ義務ヲ尽ス可シ故ニ人ハ婚姻シテ後チ
 始メテ國家社會ノ元素タルヘク基礎タルヘシ是ニ由テ之
 ヲ觀レバ西人ノ所謂畢生間ノ最好日ト云ヘル確言ハ眞ニ
 適當ナリト云フヘシ蓋シ余カ本章ニ於テ婚姻ノ理由ヲ喋
 ケスルハ直接ノ關係ナキカ如シト雖モ婚姻ハ八種ノ盛衰

増減ニ最モ重大ノ影響ヲ及スヘキモノニシテ其混婚消姻
 ニヨリ生マル、子女ノ發育成長奈何ニ於テ頗フル須要ハ
 問題ナレハナリ
 フロカノ説ニ據レハ白人種ト亞米利加土人トノ混婚ニ由
 テ生シタル墨西哥ノ雜種人ハ徐ヤ猖獗ヲ極メ體質脆弱ナ
 ラサルモ大ニ体尺ヲ減ス又南カリフォルニアニ住ムアングロサ
 クセン及ヒ「チーゲル」ノ消姻ニヨリ生シタルモノハ矮小ニ
 シテ其子孫死亡スルモノ多シ特ニ「マイカ」ハ曾テ雜種
 人ノ成長シタルモノヲ見スト又當世紀ノ初ニ佛蘭西人ト
 澳洲土人トノ間ニ生シタル雜種人アルトハ歴然タル事實
 ナレハ或ハ自殺シ又ハ癡害ヲ蒙リタリト是ニ由テ之ヲ觀
 レハ優勝劣破ノ原則已ニ社會輿論ヲ歸着スル所トナリ吾

人カ雜婚ヲ望ムノ精神ヲ惹起セシハ美ハ則チ美ナリト雖
 其目的ヲ達シ得ルヤ否ヤニ至テハ未タ充分ノ經驗アル
 ニアラサルヨリハ信ヲ置クコト能ハス然レニ未來ヲ望シ
 テ其形勢ノ如何ヲ推究スレハ混婚消姻ハ其多キヲ加フル
 モ決シテ今日ヨリ減少スルコトナシ果シテ然ラハ其雜種人
 ハ生存ノ競争ニ於テ勝ヲ制スルコトヲ得ルカ將タ滅亡スヘ
 キヤノ二点ニアリ

アリストトトルノ説ニ據レハ男女ノ兩性ハ男子ノ精液中
 ニ在テ存スルモノニシテ決シテ婦人ノ之ヲ變化セシムル
 不能ハサルモノナリト果シテ然ラハ混婚消姻ニ因テ生ス
 ル所ノ雜種人ハ敢テ弱薄ニシテ生存ノ競争ニ勝ヲ制スル
 不能ハサルモノト断定スルコトヲ得スト雖ニ大陸ニ於テ數

十年來生存ノ競争ニ勝テ制シタルモノハ小陸及ヒ嶋嶼ニ
 來テ又タ能ク勝テ制スルモノトセハ小陸嶋嶼ノ人類ハ悉
 タ亡滅スルノ外ナキモノト決定セサルヲ得ス然レモ余ハ
 體質薄弱ナル惡人種ヨリハ寧ロ混婚淆姻ニ由テ生シタル
 雜種人ヲ優レルモノト思考セリ彼ノダルウ井ノハ中間兒
 ト中間兒トハ決シテ繁殖スルモノニアラス唯其父母ノ兄
 弟姉妹ト蕃殖スルヲ得ルノミト然レモ是レ即チ血族ノ
 結婚ニシテ余ノ最モ忌嫌シ且ツ之ヲ防禦センコト夫望ム
 者ナリ故ニ若シダルウ井ノ説チシテ眞實ナラシメハ雜
 種人ハ悉ク不具白痴ヲラサルヲ免カレサルヘシト雖モ余
 ハ雜種人ハ體質薄弱ニシテ頼ムニ足ラサルモノト云フ
 事得サルナリ

博士中ノリヤンノ計算セシ所ニ據レハ白人種ハ三十年ニ
 シテ一倍シ黒人種ハ二十年ニシテ一倍スト又米國ノ或ル
 學生ノ説ニ據レハ米國ハ遂ニ黒人種ノ國トナルヘシ千八
 百六十一年マテハ白人種ノ増加ハ黒人種ヨリモ速カナル
 ヲ以テ其不利益ノ景况モ改良ニ赴キシカ近ク二十年來白
 人種ノ増加ハ百人ニ付一人ニ過キスシテ黒人種ノ増加ハ
 此レヨリ多シト今此兩説チシテ若シ信ナラシメハ歐洲大
 陸ヨリ南洋諸島ニ來テ勝テ制シタル白人種モ新世界ノ北
 亞米利加ニ於テハ生存ノ競争ニ勝テ黒人ニ制セラルハカ
 如シト雖モ元來體質ノ強大ナルモノニミ勝テ制スヘキニ
 アラサレハ其如何ハ豫知スヘキニアラス然レモ半開野蠻
 ノ人民ハ生存ノ競争ニ於テ常ニ勝テ文明ノ人民ニ制セラ

ル、ヤ明カナリ故ニ一時黑人種ノ著ク増殖シテ白人種ニ
 壓倒スル如キ形状アルモ到底勝チ白人種ニ制セラル、ニ
 至ルヘシ
 是ヲ以テ或ル場所ニ於テハ唯一ノ優者勝チ制スルモノ、
 如シト雖モ敢テ然ルノミニニアラス海ニハ巨多ノ船舶アリ
 陸ニハ千里一翔ノ鐵道アリテ万里ノ懸隔モ殆シト比隣ノ
 如ク東西ノ南洋南北ノ二洲モ恰モ一家ノ思アルカ如シ是
 ノ蒸氣時代ノ賜ニシテ交通ノ繁チ加ヘタル一大原因又混
 婚滑姻ノ隨テ多キチ致ス所以ナリ故ニ余ハ雜種人ノ増殖
 ナ未來ニ見ルヲアルチ信ズルナリ
 言語ノ起ルヤ人々互ニ其意思ヲ通セシカ爲ニシテ是ニ由
 テ誤解チ生ジ爭論チナスヘキモノニアラス而シテ人類ハ

合理的ノ言語ト稱スヘキモノナリ有スレバ禽獸ニハ推論ノ
 力ナキニアラスト雖モ普通ノ言語ナキ夫以テ彼ノミルノ
 所謂特稱ニリ特稱ニ達スルモノニシテ全稱ニリ全稱若ク
 ハ特稱ニ達スルヲ得サルモノナリ
 夫以テ思想ナリ觀念アリテ其名辭ナク又言語ナキ何ソ
 幻夢ト異ナラシヤ是レ言語ノ欠ク可カラサル所以ナリ而
 シテ西人ノ稱道スル所ニ據レバ太古「バベル」ノ處置アリテ
 言語滑亂不通トナレリト果シテ然ラバ「バベル」以前ハ
 衆人同一ノ言語ヲ用シモノニシテ今日ノ如ク到ル處言語
 大異ニシテ万国ヲ漫遊セシトスル能ハ勢ヒ數十種ノ言語ニ
 通セサルヲ得サルノ困難アルヲナカリシヤ明チナリ
 抑モ今日各國ニ行ハル、言語ノ種類ヲ大別スレバ「印

云々モ敢テ不可ナルヲ示シ現シヤ日本語ノ如キハ各辞及
 ヒ動辞其他ノ語ニモ不足スル所多ク特ニ西洋交法ノ所謂
 關係代名辞大ニモノ大キハ最モ惜ム所ナリ
 是故ニ不完全ナル言語ヲ使用スル人民ハ知識モ學問モ完
 全ナル言語ヲ使用スル人民ニ及ハサルヤ必セテ依テ思フ
 ニ亞細亞人民ノ言語ハ多ク不完全ナルモノニシテ完全ナル
 言語ヲ使用スルハ即チ歐洲人民大ニト云ハルヲ得ネ
 然レモ亞細亞野蠻半開ノ人民モ近來歐洲文化ノ影響ニ動
 搖スル隨テ言語ハ變化生ゼルヲ得ル是レ完全ナル言語
 人勢力ヲ得邊ニ不完全ナル言語ヲ壓倒シテ衰頽亡滅セシ
 ヲ形迹不レ見所以ナリ蓋シ今日最モ廣ク世界ニ使用セ
 ルハ英語ヲ佛語之ニ次キ日耳曼語ノ如キハ又之レ也

次ニモ多ク英國ノ風ニ倣フニ雖名ヲ博シテ多ク以テ實
 義ヲ得ルニ遠クハ英語ノ通者ナルヲモ是レ英語ヲ未
 來學識ヲ注意シ促スル所以ナリ
 然レモ前記ノ如ク現在ニ及ビテ未來ヲ推スルハ言語
 及變化素ヨリ多ク衆人ノ手ヲ得ルキモ又テ彼ノ如ク殆
 多ク本世界ノ學上ニ圖書等ヲ或先蘇方ニテ大王ニシテ
 下ニ及ビ其全權ヲ尽シテ一箇ヲ「ラ」シテ語ヲ混淆スル能ハ
 ンルヲ欲シテ亦果シテ然ラズヤ後ヲ變化ニ於テ又一家ノ
 手ヲ執リ人ノ私意以テ之ヲ動ス可キヲラテ下ニ離れ東西
 南洋交通自ニ繁盛加テ月ニ盛大ニ赴ク者ハ人種ノ混淆
 以必受テ期又所ニ多ク變化する生モ多ク得
 其國語明ク示シテ

或ハ某政府ノ宗教ニ干涉スルヲ早ク政治ノ羈絆ヲ離
 以テ宗教ヲ獨立セシメ各其信徒ヲ引率シテ布教ニ心力ヲ
 尽サスニハアルハカラス此時ニ當ツテ優者ハ勝チ劣者ハ
 破ラズ即チ一ハ振ヒ一ハ滅ス是レ數ノ免レサル所ニシテ
 亦勢ハ然ラシムル所ナリ是レ今日ニ於テ然リト云フ
 一アラスミテ未來必ラス此ニ至ルハシト云フニ然リ
 而シテ劣者ノ宗教ハ概チ未開野蠻ノ國ニ行ハル、小雖
 人民ノ一度ハ嘗然トシテ夢中ニ處スルノ狀ヲ脱スルハ
 雖其睡眠尙ホ未ク覺メサルモノ、中ニ於テ僅カニ存在ス
 ルニ得ルモノニ過キス隨テ腐破シ隨テ衰弱シ終ニ此宗
 教其地位ヲ保シ能ハサルニシテ拙劣汚行ノ手段ヲ用ヒテ
 以テ信徒ノ信念ヲ維持セシムルニ欲シ却テ醜名ヲ歴史上ニ遺

シテ滅スルニ在リ甚キハ政治家ヲ籠絡シテ政府ヲ助庇
 テ求メ其衰弱ヲ挽回セシメテ國亂ヲ釀スニ至ル恐ラス
 シテアル可ラス此ニ於テ平優者ノ宗教ハ益々振ヒ愈々盛
 至ル宇内ニ一掃シテ色シカニ宗教ノ區域内ニ管轄スルニ
 至ルニ現シヤ優者ノ宗教ハ其行ク所文明ノ種ヲ蒔キ過
 クハ所開化ノ續チテ是レ古今ノ事實ニ徴シテ又其間ニ
 疑チ容ルベク能ハス下雖決シテスベシセルノ如ク諸民
 夫遵奉スル宗教ハ人ノ賢愚并從テ差別アリ人智愈進ニ
 ハ宗教益改良シ國ノ宗教ヲ見テ其人智ヲ知ルニ足ルト云
 フニハアルナルヘシ蓋シ余ハ素ヨリ或ル論者ノ如ク宗教
 ノ自滅ヲ喜ブベキモノニアラス却テ宗教ノ盛大ナル氣運
 一尙テ希フモノナシ何シトナレハ人ハ新機ナル所ノ動物

一、吾人ハ一日モ宗教ヲ離レテ此世界ニ存在スルコトヲ
 得ザルモノナリ希臘ノ史家アルキタロス曰ク凡ソ人民
 其ノ信仰ナク社會アリテ宗教ナキ邦國ハ未ダ之ヲ知ル
 夫以然ラ然ラハ則チ吾人ハ宗教ノ優劣ヲ選擇セテ之ヲ信
 奉シテ可ナラン乎曰ク否吾人ハ宗教ヲ離レテ一日モ存在
 スル能ハザルモノトモハ其信奉スル所ノ宗教ヲ選擇ス
 ルハ理ハ應ルモノ然ルヘキモ人々ハ輕忽ニ付テハカラス
 然レテ今日存在スル所ノ宗教ハ其數甚ク多クテ殆ソト
 記應スヘカラス此記應スヘカラスハ夥多ノ宗教カテ悉
 ク信奉スルコト足ルヘキモノトモハ乎決シテ然ルヘキモノ
 一、天カ何ソトナレハ拙劣ノ不完全ナル宗教ヲ信奉スル所

一、天民ハ其國ニ於テ拙劣ヲ得ルコトヲ痛覺シテ其國
 以テ其民ヲ救フニ應ル政府ヲ下シ生機ヲ天國ニ求メ自
 由ヲ知ルコトヲ夢想ス夫レ不能ハ天唯命是從テ其國ニ
 天是非ヲ曉カシメテ其國ニ天ヲ知ラセヨトモハ
 一、試ミテ見ヨ古キ其國ノ人民其宗教ヲ最モ猛惡ト爲シ
 故ニ其政府亦万国ニ比類ナク專制政府ヲ下ラセテ是
 以テ其人民ハ少クテ其文明亦劣シ呼吸スルコトヲ得テ常
 一、意爾下テ其野蠻ノ風ニ安シ其國ニ是レ其政府ハ歐洲開
 明諸國ノ文物ヲ採用スルヲ嫌惡スルコトヲ得テ其國ニ
 一、回テ其結果ハ斷言セテ其國ニ其國ニ其國ニ其國ニ其國
 一、信奉スルコトヲ得テ其國ニ其國ニ其國ニ其國ニ其國
 一、少則チ天國ニ入ルコトヲ得テ其國ニ其國ニ其國ニ其國

機智キマテ技藝ヲ習テ志氣トキ増故ニ常ニ聽從ス
 自由ナルヲ欲セテ下確言下云ク人ヲ願フニ古代亞細亞
 諸洲ノ人民多クハ帝政ノ下ニ棲息シテ君臣上下ニ君臣ノ
 效法ノ下ニ奴隸ノ上下ノ懸隔殆ク下天淵ノ差ナリ
 臣民ノ君主ニ事ナリ身心兩以テ其ノ事ヲ之ニ奉シ唯命
 是ト從フニアラズ若ク其忌嫌ニ觸ルニ辱ム怒リ身首
 其處ヲ異ニスルニ至ル是故ニ君主ノ臣民ヲ見ル土芥
 若ク其生殺與奪ヲ權ニ悉ク掌テ已ノ有テテ誇漫無
 禮我意是ヲ張リ世ノ非他ニ人ヲ敢テ恐ルモ以テ
 大始テ然ラ然ラ然則テ其尊大實ニ愚ク可ク斯ル武斷壓制
 ノ世ニ於テハ君主タルモ以テ其臣民國保護者トシテ人軍
 普羅漢漢漢漢我少少憐愍ヲ満足ニ養フルニ在リ然レ爾

此時代ニ政教未ク分離セズ君則チ師トシ則チ君ニ
 所謂德光ノ君師ナルモノナリ是ヨリ東洋諸洲昔日ノ
 現象ナリ然レテ東西兩洋ノ交通日ニ繁ク加ヘ金城鐵壁ト
 鎖ル港門モ忽チ開キ通商貿易ヲ大ニ文物ヲ採用
 大ニ君臣ノ關係ハ變シテ政府人民ノ關係トナリ一國復
 君主ノ私所有トス政府アリテ人民アルニテ人民
 政府アルニテ主義トナリ所謂天下ノ天下ノ天下ニ
 一人ノ天下ニテナル世トナリ此ニ至テ宗教モ初メ
 政事ヨリ離レテ獨立シ學問モ政府ノ管理ヲ脱シテ一
 固有ノ地位ヲ有テ其他商業ニ殖産ナリ技藝ナリ各獨立
 別乾坤トナシ天下ノ事政治ニ一事ニテ政治ハ社

會ノ事部分ナルニ至リ斯ノ單純合同ナル世ヲ脱シ方
 進シテ複雜異殊ナル開明社會ノ位置ニ至ラントスル
 變化ノ時期ニ際會ニ社會現象ノ混沌タル人民思想行爲ノ
 相矛盾セル固ヨリ性トスルニ足ラサルモノナリト雖モ
 試ミテ思ハ自由制度ヲ設立シ帝國スルモノモ其精神ハ舊
 時ノ壓制精神タルヲ免カレテ殖産主義ノ旺盛ヲ圖ラント
 大ニモ政府ノ力ニ頼テ之ヲ爲セトス其思想ハ泰西文明
 ノ新思想ニ於テモ其精神行爲ニ依然東洋舊時ノ卑屈精神行
 爲ヲ多クセルモノ殆シト稀ナリ其狀恰モ猿頭蛇尾鷹ノ如キ
 觀テ呈シ少壯有爲ノ氣象ニ乏シク悉ク學ヲ老成人ナルカ
 如キ有様ナルハ實ニ痛歎ニ堪ヘサルナリ然レモ歐洲諸國
 昔自前時開壓制ノ世ニ稱スルモ敢テ不可ナキカ如キ彼ノ

文化ヲ以テテ各ナル希臘國雅典ノ如キ古代民政ノ盛ナリ
 シ名譽ナルモノモ拘ラズ其人民ノ稱シテ政事ニ參與セシモ
 ノ人日三十五万中僅クニ二万餘人ニ過キテ餘ハ皆奴隸
 人類ニシテ恰モ血氣ヲ機械ノ如ク取テ自由ノ權ヲ有セ
 ズ然ルニ世ノ稱シテ雅典人民ハ平等ノ權ヲ有シ眞ニ政治
 上ノ自由ヲ保ヌルト云フハ蓋シ當テ得ルカ如何シ
 其實ナル權カニ門閥共和ノ政府ト云フヤアテ
 參政ノ自由權アリテ者ハ貴族一般ニ限リテ明カナリ雅
 典倫ニ且シ然レ況シテ其他ノ古國ニ於テヤ其人民ト云
 自由ト云フモ令代ノ所謂人民ニシテ又自由ニアラズ
 其ノ疑ヲ容ルカラス彼ノ高名ナルアリテトスルヲ始
 ヲ希臘羅馬ノ賢哲ハ一人トシテ門閥範圍ヲ脱セシモノナ

自由民ト奴隸人ノ區別ヲ天然トシテ更ニ怪ムモノナカ
 リシナリ是ニ於テ政治上ノ門閥ニ加フルニ又文學上ノ門
 閥ヲ以テシ遂ニ文武共ニ門閥ノ旗色ヲ帯ヒ文學ト又劍ト
 肩ヲ並ヘテ門閥トナルノ羽翼トナルニ至レリ
 然リ而シテ紀元前凡ソ三百年ニ當テ希臘ハ衰弱シテ其人
 民昔日ノ勇氣アラヌ又其人民ヲ鼓舞シテ勝利ヲ得セシメ
 タル彼ソレヲエタタミリテアデス及ヒバミソノダス
 若キ名將アラヌ故ニ馬基頓ノ王ヒリッパ希臘ニ進軍シ忽チ
 全國ヲ併吞シテ自カラ之レカ主カラシメテ欲シタリト雖
 他唯モリッパカ憚恐ムル所ノモソハ雄辯以テ雅典人ヲ鼓舞
 シヒリッパノ軍ニ抗衝セシメタル徳謨斯底尼斯是レナリ然
 シル紀元前三百三十八年前ニ至リ雅典人ハ破北シテヒリッパ

遂ニ希臘全國ニ君臨セリ其子歴山王父ノ志ヲ繼キ希臘諸
 州ヲ征服シテマ波斯印度ニ及テ唯其事トスル所ニ遠征併
 吞ノ一点ニ在リ
 歴山王ノ死スルニ希臘ノ人民ハ其自主自由ヲ恢復セシメ
 欲シタルト雖希臘ノ功ナク遂ニカサンドルノ爲メ希臘
 從ヒテ其日ヨシテ極惡不道ノ王出テ殘忍暴戾以テ其民
 苦メ壓制ノ極度ニ達シタリト云フモ敢テ不可ナキカ如
 名之ニ真惜セザラズトナルモ得シヤ其結果ニ紀元百四十
 六年前羅馬ニ服従スルニ至レリ羅馬ニ起ルニ及レテ其名
 ハ共和政治ト稱スレル其實ハ人民絶ヘテ政治上自由ノ權
 ナルヲ大ニ政府ハ各人ノ權利ヲ抑制スルニ衆議ノ權利ヲ
 以テテ故ニ羅馬ノ百戰百勝ヲ得頓ニ強盛ヲ極メ未曾有ノ

大國ヲホセシモ各人ノ權利ヲ抑制シテ衆諸ノ權利ヲ強盛
 ナラシメシニ基ク者ノ如シト雖也斯ク人ノ貴重ナル嗜好
 ナ高束シテ全ク自由ノ權ヲ壓制シ徒ラニ其勇武ヲノミ熱
 心擴張シタルハ豈ニ亦慨歎スヘキニアラスヤ然リ而シテ
 奸雄梟將隨テ繼ヒテ羅馬ニ起リ己ノ勢力ニヨリ其慾ヲ逞
 シトシテ及ヒ人民ヲ見ル土芥ヨリモ甚シク紀元四
 十八年前ニ至リ該撒ハ終ニポンペイヲ殺シテ羅馬ノ全權
 ナリテ著多殘虐實ニ極マレリト云フヘシ該撒ハ死後
 ナシテシテハ僥倖ニシテ戰勝ヲ得國王ノ名号ヲ賤ミ自ラ
 帝ト稱シテ權勢ヲ恣マ、ニス而シテ殷富ヲ極メ壯麗ヲ尽
 シ廣大強盛以テ文化ノ最モ進歩シタルヲ千古ニ冠スリト
 雖也其人民ハ有權ヲ見シハ慷慨トシテ悲痛ニ堪ヘサルナ

其強王ノ人民ハ幸福奈何ニ注意セズ多クハ憔悴ニシテ
 奢靡ヲ極メ己ノ情慾ヲ滿スルヲ以テ畢生ノ目的トナセ
 鳴呼羅馬帝國ノ殷富ハ全世界ノ劫掠物ヲ以テ致シト
 云フ蓋シ此言ハアラサカキリ
 紀元三百六十四年及ヒ羅馬ハ分リテ東西ノ二帝國トナ
 シ國力既ニ衰ヘ人民ハ統御シ難ク自國ヲ防禦スルニ能ハズ
 自由ノ權全ク地ニ墮落シテ方サニ跡ヲ絶タントセシカ日
 耳曼ノ夷狄來テ其國ヲ侵スニ及テ其人民多年暴君ノ虐政
 通歴セラレテ萎靡縮シテ其俗ヲ成セズヨリ柔懦
 ナシテ國ヲ思フノ心ナク地廣クテ寇ヲ禦クニ力ナシ此
 於テ羅馬ノ形勢大ニ土崩ニ歸テ復テ收拾スル能ハズ紀元
 四百年代ノ末西羅馬全ク亡ヒ東羅馬ハ微々トシテ續カ

君主但丁ニ存スルヲ得ルニ至シテ然ルニ夫ノ羅馬ヲ占シ
 歐洲全土ヲ縱横セシ日耳曼ノ夷狄ハ固ト不文不明ノ蠻狄
 ト雖モ其深山大澤ノ中ニ居リ狩獵ヲ業トシ戰闘ヲ專ラト
 スルノ際敢テ君長ニ束縛制馭セラレハ一テ悦ハズ人々互
 ニ自由ノ權ヲ存有セシカ故ニ後漸ク開明ニ進ミ佛蘭西伊
 太利又ニ自耳曼或ハ英吉利等各處ニ國ヲ立ツルニ及ヒ能
 ク其自由ノ權ヲ保有シタリシヲ降テ中古封建ノ制其弊害
 ナ種々群雄四方ニ割據シテ相攻伐シ人民其生ヲ安シスル
 コア多ハサルヲミナラズ歐洲ノ全土ヲ舉テ貴族ノ專有ス
 ル所トナリ社會上ノ名譽モ權威モ土地モ共ニ代々貴族ノ
 遺傳專有スル所トナリ是ヲ以テ土地ヲキメ平民ハ各モ
 ナク威モナク生瓦礫ノ如ク碌々トシテ壓制ニ下ニ呻吟

シテ歐洲ノ全土斯ニ如ク暗黒ニシテ貴族跋扈シ王侯壓
 制ヲ極メタル際倏然トシテ羅馬教ノ勢力全歐洲ニ延蔓
 シ羅馬教皇ノ威權強盛シテ歐洲帝王ト仰カレテ至
 リ貴族ノ門閥ヲ制スルニ僧侶ノ門閥ヲナセシト雖モ僧侶
 ノ門閥ハ貴族ノ門閥ノ如ク甚シカラス常ニ人民ニ左袒シ
 テ帝王貴族ノ暴虐ヲ制シテ特ニ十一世紀ニ至リ十字軍
 ノ大舉ハ貴族ノ富ヲ基督教會ニ注キ又其力ヲ外邦ニ洩ス
 シテ其權勢ヲ挫キシメテ東方ニシテ人ノ智力機
 械ヲ歐洲ニ輸入シテ愛ニ愛ニ變シタリ其火藥大砲磁
 石ノ三大器械ハ歐洲暗黒ノ中世ニ輸入シタル功優ノ巨大
 ナルハ今日ニ及シテ始メテ知ルコトヲ得ベシ而シテ後チ
 トナシ氏ノ帝國盛ニス盛ニ千四百五十三年ニ至リ西方

君士但丁ノ城ヲ圍ミ五十三日ニテ遂ニ之ヲ陷レ猖獗ヲ
 極ハムルニ至リ此ニ幅曠セシ無數ノ學士ハ伊太利其他ノ
 諸國ニ脱走シ各得意ノ學問ヲ披露セシヨリ自由ノ說再ヒ
 芽萌セリ次テ十五世紀ニ至リ獨逸國一農夫ノ子ヨルマル
 テン、ル、トアル宗教上ノ改革ヲ主張シ思想自由ノ反旗ヲ翻
 シ羅馬法皇ノ大壓制ヲ轉倒セシヨリ其影響ハ學問政治其
 他社會ノ万事ニ波及セシ十六世紀ニ及ヒ英、法、オ、コ、ン有形
 學ノ改革ヲ起シ佛、オ、カ、ト無形學ノ大變ヲ生シ何レ
 モ先人ノ說ニ満足ス可ラザルヲ辨シタリ而シテ封建ノ制
 度漸ク衰頽セシト雖摩各國ノ帝王又專制ノ政ヲ行ヒ千六
 百年代ノ末佛王路易十四世ハ自ラ稱シテ國ハ則チ予ナリ
 ト言ヒ專制ノ政此ニ至テ極マレリト云フハ然ルニ十八

世紀ニ及ヒ佛蘭西ニ至テタルカト云フ政治學上ノ大英
 雄起リ思想自由ノ主義ヲ探テ政治上ニ適用シ一世ノ安穩
 ナク興敗排擊ヲ殆シト餘力ヲ殘サレリシカハ遂ニ佛國ノ大
 騷亂ヲ惹起シ帝王ヲ剝テ貴族ヲ倒シ門閥ヲ一掃シテ今日
 ノ共和共和國トナシテ今日ヨリ其餘波四隣ニ延蔓シテ人民ノ
 權利同時ニ増加シ今チ歐洲全土益ス民政ノ世ニ移ラント
 然ルノ狀勢トナレリ
 然リ而シテ英國ノ如キ建國ヨリ今日ニ至ルカチ人民智識
 ノ進歩スルニ從テ漸ク選舉權ヲ擴張シ人民ニ參政權ヲ與
 ラルノ主義ヲ固執實行セシモノナリ試ミテ英國ノ政治世
 界ヲ歐洲大陸ノ諸國ト比較スルカチ魯西亞ノ如キハ君主
 專制ノ制ニシテ立法行政及ヒ裁判ノ三權悉ク奉テ國帝ノ

掌握ニ歸シ帝心是レ法タリ况シヤ國帝ハ實ニ法皇ニシテ
 未タ政教ヲ全然區別セズ又國會ノ設ケアルコトナク其人民
 ハ少シクモ參政ノ權ナシ政府ノ命スル所唯命是レ從フニ
 アラスンヤ忽チ捕ヘテ之ヲシベリヤニ遠徙ス此ヲ以テ國
 内常ニ不平ノ徒タヘテ終ニ前帝歷山王第三世ヲ弑スルニ
 至ル財政ノ如キ歲入歲出ヲ償フニ足ラス國債ノ増加スル
 未タ願ハズ人民ノ休休何ニ拘ラズ兵事ヲ熱心弘張シテ
 武斷政界ヲ施行シ人智ヲ妨害シテ自由ヲ得カセサズヨ
 々欲スルモノ如キ豈ニ之レ憫ムヘキ人民ニアラスヤ且
 耳曼然數多ノ邦國同盟シテ永世不朽ノ聯邦ヲナス立憲帝
 國ニシテ其國帝ハ聯邦ノ軍務及行政務ヲ措置スルノ大權
 兼有スルニ屬スル憲法ノ第十一款ニ國帝ハ外國ニ對シ

帝國ニ代テ防戰ヲ時ニハ直チニ之ヲ公布シ或ハ和親ヲナ
 シ或ハ外國ニ條約ヲ締ヒ或ハ使節ヲ遣リ又ハ之ヲ待遇ス
 ル等一般ノ政務ヲ辨理スルヲ權アリ而シテ同盟會及ヒ公
 會ヲ開キテ立法ノ事務ヲ任ズルヲ以テ一見大ニ人民參政
 ノ權アル如クシテ雖モ其實ハ全國ヲ舉テ軍陣ノ姿トシテ常
 ニ保守主義ヲ固執スル政府ニシテ漸ク今日ニ及ンテ改進黨
 ノ論勢力ヲ得ルニ至リテ換地利匈牙利ハ各自議院ヲ執
 政アリ政府アリ然レモ一君主ヲ戴キ海陸軍及ヒ外國交際
 ニ關スル事ハ總テ之ヲ共ニシテ議官ニ兩國ヲ立法ヲ委任シ
 以テ二國ヲ合一シテ上下兩院ヲ設ケテ大ニ參政ノ權ヲ人民
 ニ得セシムル如クシテ雖モ未ダ以テ完全ナラサル所アリ白
 耳義ハ初メ和蘭ノ一部ニシテ千八百三十年八月廿五日ヲ

リニシテモスニ於テ大變亂起リシニ由リ獨立シテ一國トナ
 リ其國內ニ政府ヲ設ケ千八百三十九年四月十九日倫敦ニ
 於テ條約ヲ結ビ立憲ノ世襲王國トナリタリ而シテ立法ノ
 權ハ國王及セ代議員ト元老議員トノ三者ニ歸スト雖モ兩
 議員ハ勳モスレハ國王ノ忌嫌ニ觸レシコト恐レテ其任ヲ
 尽クシタルコトアリ其他荷蘭、瑞典、西班牙、伊太利等モ自由主義
 ノ最モ大ニ近來行ハル所ト雖モ未タ英國人民ノ如ク政
 治ニ自由ヲ得テ政府ノ施政得失ヲ奈何ヲ論シ自由ニ演
 説シ自由ニ集會ヲ爲シ得ルモノハフランス又巡査及ヒ官府
 ナク人民ノ身體財產ニ對シテ容易ニ手ヲ下ラササルノミナ
 ラズ之ヲ保護スルコトノ厚キハ英國ニ及ブモノナシ佛蘭西
 如ク現ニ共和政府ニシテ一見政治上ノ自由ヲ得タル

リ地球ニ無類ナル國々如クト雖モ帝政ノ時代ヨリ遺存ス
 ル壓制法少クシテ特ニ今日ニ於テ政治主義ヲ以テ人民
 大集會ヲ自由ニ爲スルコト許サズ(或ハ騷亂ノ起ル恐レアル
 事ニ至ルコト)新聞ノ如ク停止沒收ノ嚴法ハ英國ニ於テ稀有ニ
 事ニ至ラズ佛蘭西ノ如ク尙ホ之ヲ免レサルノミナラズ
 孔シク佛人ハ輕薄ニシテ奢侈ヲ好ミ壓制ノ餘熱漸ク衰ヘ
 テ未ダ冷テテサレテ忽チ帝政黨ノ如キモノヲ現出スルニ
 至リシコト以テ考シレハ佛人ハ腦裡或ハ一部分ニ於テ帝政
 主義ヲ念消ヘカレニ似テ此等ノ例ヲ揭ケハ歐洲ニ於
 テ人權ノ堅固ナルト政治ノ自由ナルトハ英國ノ右ニ出ツ
 試ニ一服ヲ宇内ノ政治社會ニ注テ其有様ニ如何ヲ觀察ス

今日ノ政府ハ立憲ノ政府ニシテ君主專政武斷壓制ノ政府ニアラズ又雅典ノ如キ民政ノ名アルモ實ナキノ政府ニアラサルナリ之中世以前ニ比スルキハ其進歩ハ敢テ論テ俟タズ况ソヤ今代ノ人民ハ暗黒ナル中世ノ人民ニアラズ特ニ中世以前ノ自由ハ政治上ノ自由ニアラズシテ天然主ノ自由ナリ其權利ハ道理上ノ權利ニアラズシテ腕力上ノ權利ナリ是レ即チ責任ナキノ自由義務ナキノ權利ナリ夫レノ責任ナキノ自由ハ放蕩ナリ義務ナキノ權利ハ專制ナリ豈ニ今代ノ所謂自由又權利ト同一視セントスルモ得ズカラスナルナリ然レモ今日ハ交際ノ社會情實ソ世ナルヲ以テ政治社會モ亦從テ公明正大ノ假面ヲ粧ラテ籠絡瞞着ノ手段ヲ行ヒ民心ヲ博セントスルモソアリ斯レ手段ハ永

社會ニ保衛スルハ新ヨリ希フ所ナリ然ルモ其變化以テ各學ヲ離ル米ノ政治家モ隱幻ト變遷不思議ノ手段ヲ用ヒテ人民ヲ瞞着シ甚テ實ハ憲法ハ唯虛飾徒法空健ハ保衛スルニテテ助モ本レテ各々憲法ヲ假リテ大壓制夫利スル者少ク大和利ヲ未ダ得ル者少ク社會ニアルスル然レモ其門關係ヲ民政ニ世トナシテ從ヒ社會ノ形勢平等ニ傾向スルハ歐米今代ノ文明ニ於テ其最モ著明ナル事象ト容ルルモ又今日ニ及ブテハ平等ト自由ト併行シテ離ルル者少ク能ク社會ノ平等大致セシモノト即チ自由ヲ來セシモノトナリテ明カナリト雖モ平等ト自由ト其趣キ少ク相異ナル者ナレバ今後形迹如何ニ至テ深ク察スルモノヤ可ラス思フニ後來平等果シテ自由ト

今や歐米各國日々逐つて方々民政ノ世トナラントスル
 一及ヒタルハ又疑フ可カキサルナリ天下万民ハ人種ノ異
 同智愚強弱ノ差別アルモ天理ニ於テ平等均一ノ權利ヲ有
 スル者キカト斷定スルニテスレバ社會實際ノ紛紜ヲ解
 釋シテ万人ノ關係ヲ正當ナラシムル能ハサルナリ故ニ
 平等ト云フニ即チ權利ノ平等ニシテ然カモ權アレハ必ラ
 義務ナカレ可カラサルカ故ニ均一ト云フハ即チ義務ノ
 均一ト云フコトニ外ナラズ特ニ此民政ノ一大變動ハ
 歐米諸洲ニ止マラスニテ東洋諸洲ニ波及スルハキヤモ又未
 知ナルハ知ラズ然レモ我帝國ノ如キ世界無比万世一系統
 ノ帝室ニ於テ余情臣民ノ皇化ニ沐スルニ千五百有餘歲其
 間奸將暴民ヲ徒或ハ皇室ヲ輕シテ意慮ヲ煩スル者少シト

セズ將門尊民ノ如キ是レナリ而シテ成長以來西洋ノ文物
 ヲ採用シ官省諸局ノ組織ヨリ府縣ニ至ルマテ實ニ昔日ノ
 日本ニ於テスルナリ現ニヤ大詔一ト度降テ國會開設ノ期
 定マル是ニ於テカ立憲ノ基礎愈々堅固ニシテテ千万歳ノ後
 一至ルモ此盛大無窮ノ皇恩ヲ忘却スルモノナキハ余カ信
 疑ハサル所ナリ故ニ我カ帝國ハ民世ノ變動ニ關シテ
 終始局外ノ地位ニ立ツモノナリ
 然リ而シテ東西文明ノ軋轢競争ハ自由ト壓制ト軋轢ナリ
 學問ト無知ト競争ナリ夫レ壓制ハ一時強大ナリト雖モ遠
 ニハ必ラズ自由ノ爲メニ敗滅セラルモノナリ無知ハ一
 見國政ノ上ニ便利ナルカ如シト雖モ是レ亦テ學問ニ向テ
 對抗シ得ハキヤテラサルナリ壓制豈ニ自由ニ敵スルモノ

夫ラノヤ無知豈ニ學問ニ勝モノナラシヤ故ニ今代ノ西洋ハ昔日ノ西洋ニアラズ今代ノ東洋ハ亦昔日ノ東洋ニアラサルナリ是ヲ以テ所謂黄金時代アルハ既往ニ徴シ現在ニ據ル亦疑テ容ルヘキニアラス嗚呼此盛大ナル世界ノ理想鏡ハ熱心希望スル學者ノ最も勉ムヘキモノナリ

第五章

軍事ノ未來ヲ論ス

地球上ニ星羅棋布スル所ノ邦國其大小相問ハス苟クモ一國ヲナス所ハ軍事ノ忽ニスヘカラスナルハ固ヨリ論ヲ待タズルハ其蓋シ世界一級文明ノ極度ニ達シ而シテ各人彼我ノ權ヲ傷ケサルノ時即チ黄金世界ニ至レハ内チ爭亂ノ憂ナク外ハ併呑ノ患ヒナカル可シ且雖此是レ容易ニ希テ不可キニテ其存クモ然悉カル人間ハ人慾ノ制テ可クハ他

ヲ損マシテ已ニ益ノ外ニ取テ内ヲ利スル實然免ル可クナルノ數ナリ是ヲ以テ東西古今ノ歴史ヲ通觀スルニ凡テ爭亂戰闘ヲ以テ填充スルモノ決シテ不可ナリ且テ其如シ是レ所謂弱ノ肉ハ強ノ食ト著鏡レテ大者興ル故ニ朝ニ乞巧ナルモ夕ニ將帥トシテ三軍ヲ引率シテ優劣ヲ干戈ニ訴テテ最モ多ク即チ我カ國ノ豊臣氏佛ノ初代奈破翁ノ如ク此時ニ當テ社會ノ懸隔ハ實ニ甚シク軍人ニアラサレハ名譽ヲ一世ニ博シ事業ヲナシテハ其ノ勢トナレ試ミテ世界ノ歴史ヲ緝キテ之ヲ視レハ吾人ノ腦裏ニ千種万狀ノ感覺ヲ起シ來ルニ雖此特ニ最モ感覺ヲ惹起シ來ルモノハ腕力ノ競争ニ如クモナキナ概嘆スルニ外ナキナリ嗚呼夫レ之ヲ稱シテ戰亂世界ト云フモ亦詛言ニアラ

サル然リ然ルカ故ニ世ノ政治家ハ萬國公法ノアルニモ拘
 ラズ救ヲ汲々トシテ日夜軍事ノ擴張ニ熱心焦慮以テ良法
 奇策ヲ案出スル所以ノモノハ決シテ理ナキニアラスト雖
 此軍事ハ邦國ノ重事民命ノ關スル所也是ヲ以テ國家ノ治
 亂興廢蓋シ之ニ由ラサルハナシ然レモ軍事ノ擴張ニノミ
 熱心尽力シ徒ラニ兵員ヲ増加シ以テ大ニ爲ヌ所アラント
 以ル乎是レ容易ニ左袒スル能ハサルノミナラヌ又希望セ
 シル所ナリ何ントシレハ是レ則チ莫大ノ費用ヲ要セサル
 爾ラズ莫大ノ費用ヲ要スルヲ以テ人民ノ生産上ニ幾分ノ
 關係ヲ及ベシ從テ幸福ヲ損害スル固ヨリ免カル可ラサル
 ソ敵ナリ若シ之ニ反シ内治ノ改良ニ熱心シ砲銃モ選

擇セズ軍艦モ製造ス可ラストシテ軍事ハ之ヲ夢想視テモ
 此大願ニサレハ即チ内憂外患兩ツナカラテ防禦ナル術
 ナク而シテ國威日ニ弱シ政令遂ニ行ハレサルニ至ラソ夫
 誰之ヲ如何ニシテ再ナラシメ是レ素ヨリ今日ノ談ニ
 シテ將來ヲ云フニアラサルニ蓋シ願ミテ過去ノ形勢ヲ
 考メ以テ尙武ノ世界ニ自由ナクシテ強兵ノ時代ハ即チ歴
 制ノ時代タルヲ記憶セサル何ラス是レ社會學ノ原理ト云
 フモ敢テ謬言ニアラサルナリ何ントナレハ希臘ニ於テ歴
 山王ノ強兵起リシ時ハ則チ希臘ノ自由亡滅セシ時ヨアラ
 ズヤ羅馬ニ於テ該撒ノ強兵起リシ時ハ即チ羅馬ノ自由消
 散セシ時ヨアラズヤ歐洲ニ於テ拿破侖ノ強兵起リシ時ハ
 則チ歐洲ノ自由幾ソト危急ナリシ時ヨアラズヤ拿破侖戰

爭後英國ノ官權党ハリトルロト戰勝ノ餘威ヲ藉リテ二
 十年ノ間英國ノ政權ヲ占メタルニテ現ニ日耳曼ノ
 如キ歐洲ノ平和ノ爲メニ止ムヲ得ヌシテ兵勢ヲ嚴シシ
 全國ヲ擧ケテ軍陣ノ姿ヲ呈スル國ニ至テハ其人民享有ス
 ル所ノ自由ノ程度ヲ英、米兩國ニ比較スレハ遙カ數等ノ下
 ニ位スルニテアラズヤ更ニ魯西亞ノ如キ未ダ文化ノ發育モ
 ナル武斷國ニアリテハ其人民ノ自由權ハ最低等ニテ實
 ニ憫然ナルモ人ニテアヌヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ兵武ハ壓
 制ノ異名ニシテ一將ノ命令ハ生命ヨリモ重ク万卒之ニ服
 從セサル可ラズ大將ノ威光ハ君主ヨリモ甚シク下卒ハ之
 レヲ奴隸ニ異ナラズ而シテ兵卒ハ上將ニ奴隸ノ如ク使役
 セラルル下ニ雖モ下ニ奴隸スヘキ者ヲモヨリ或ハ平民ヲ奴

隸視シテ賤辱狙獵ヲ極メ漸ク壓制ノ風ヲ家族ニ移シ妻子
 兄弟ノ間ニ逞カスルニ至リ遂ニ國家ヲテ武斷壓制ノ國
 家トナサシムルニ及フニ下ナリ是レ古今武斷行ハルニ社
 會ニシテ未ダ會々家族ニモ壓制行ハレサル國アラサル所
 以ナリ蓋シ社會上ノ万事万物ハ有界ノ万事万物ト同シ
 ヲ相互ニ原因結果ノ關係前後緩急ノ順序アリテ存スルカ
 故ニ社會一般ノ實力ヲ圖ラズシテ獨リ兵力ノミヲ盛ニス
 可ラズ我カ東洋ニ在テモ昔波斯國ノ大王ツルクセスノ希
 臘ヲ征服スルニ當リ亞細亞、亞非利加兩洲ノ兵卒二百五十
 万ノ大衆ヲ引率シテヘレボントノ海峡ニ至リ二重ノ船
 橋ヲ架シ一列ニシ以テ大衆ヲ渡セシニ七日七夜兵士之ヲ
 渡リテ間斷ナカリシト云フガ如キハ古今無雙ノ大兵ニシ

テ荷クモ壓制ノ勢力ヲ用ユルヲアラサルヨリハ是ノ如キ
 大兵ヲ徵集スルヲ能ハス我カ日本ノ如キモ中世豪傑諸處
 ニ割據シ強弱相凌キ屢々大兵ヲ引ヒテ東西ニ轉戰シタル
 事ハ自由ノ時代ニアラスシテ武斷壓制ノ世ナリ特ニ強兵
 ナリテ高名ナルスバタルノ如キ當時ノ情狀ヲ考フルニ公
 事ハ固ヨリ言ヲ待タス人民ノ私事モ亦政府ニ於テ之ヲ規
 定シ或ハ父子夫婦ノ間ニ干涉シテ其家務ヲ稽查シ或ハ人
 民ノ等位ヲ分チテ特ニ其職業ヲ限制シ或ハ文學ヲ禁シ或
 ハ教育ヲ限リテ身体ノ健康ヲ保スル一事ヲ以テシ彼ノ有
 名ナル鎖錢ヲ鑄造シテ鎖國唯兵力ヲ養フノ一点ニアリ嗚
 呼古代軍事ノ擴張ハ即チ壓制ノ培養ナリ豈ニ是レ望ム可
 キ事ナラシヤ

夫亞然、而シテ古代ノ武斷壓制ハ勢ヒノ止ムヲ得サルモ
 ノニシテ數シテ免レ難キ所ナリト雖也十九世紀ニ至テ軍事
 上ニ進歩ハ日ニ開ケ月ニ進ミ其精鍊ヲ極ハムル今代ニ如
 クモノナレ故ニ余ハ今歐洲各國ノ人口兵員及ヒ艦數ヲ揭
 ケテ讀者ノ通覽ニ供セントス

左ノ表ハ近時倫敦ニ於テ發刊シタル各國ノ軍務及財政
 現況ト題スル書中ヨリ摘抄スルモノニシテ千八百八十
 一年ノ調査ニ係ルモノナリ但帆前船汽船水雷船ヲ除ク

國名	人口	常備兵	豫備兵	甲鎖艦	木製艦	海軍兵
白耳義	五、五三六、六五四	四六、七三三	一〇三、六八三			
丁耳抹	二、〇九九、四〇〇	三四、五五二	四九、七八〇	九		二四
日耳曼	四、五、一九四、一七三	四四、九、二五七	二、六、六九、一〇四	三三		五九

佛蘭西	三六、九〇五、七七八〇	四九五、八八八	二、四三三、一六四	五九	二六四	五、二一、八三三
希臘	二、〇六七、七七五	三、二八〇、五	八三、〇七八	二	一三三	六、五三三
英吉利	三五、二四六、五五五	一、三二一、八五九	五七五、三六二	七五	三六〇	七、九、二五〇
荷蘭	四、〇六〇、〇五八〇	六五、一一一	一、七五、一一一	一九	八四	五、九、四四
伊太利	二八、四三三、三九一	三三三、五二〇	一、七七八、九三三	一八	四一	一、五、〇五五
諾威	一、八〇六、九〇〇	一八、〇〇〇	四〇、七〇〇	四	三三	三、五、〇〇〇
埃地利匈牙利	三三、七四五、二二五	二、六六、八二四	一、〇八六、九三三	一四	二九	六、一、七九九
葡萄牙	四、七四三、一一四	三三、三三四	七六、七九〇	一	二五	三、三、〇七
露西亞	八五、九六五、九四三	九七四、六七一	一、四三七、八五三	三〇	一九四	三、〇、一、七四
西班牙	一、六三三、五八〇	一、九〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一〇	一一五	二、二、四〇
瑞典	四、〇〇〇、〇〇〇	四、三三〇	一〇、二七五	一四	一一六	五、六、〇〇五
土庫曼	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三	一一三	三、〇〇〇

是、由、之、觀、レ、ハ、今日、ハ、未、テ、武、斷、壓、制、ノ、世、ニ、シ、テ、開、明、ノ、時、代、ニ、ア、ラ、ザ、ル、ガ、如、シ、夫、レ、武、斷、壓、制、ハ、自、由、ノ、大、敵、ニ、シ、テ、時、代、ノ、利、劍、ナ、リ、眞、ニ、彼、ノ、ス、ベ、ン、セ、ル、カ、論、ス、ル、如、ク、ア、野、蠻、時、代、ノ、日、ニ、ア、ラ、サ、レ、ハ、社、會、万、般、ノ、改、良、決、シ、テ、行、ハ、ル、戦、争、止、ム、ノ、日、ニ、ア、ラ、サ、レ、ハ、自、由、ヲ、得、ル、モ、亦、タ、之、チ、一、方、ニ、失、ヘ、キ、ア、ラ、ス、假、令、一、方、ニ、自、由、ヲ、得、ル、モ、亦、タ、之、チ、一、方、ニ、失、シ、テ、到底、完、全、ノ、自、由、ヲ、享、有、ス、ル、ト、ナ、カ、ル、ヘ、シ、武、人、死、シ、テ、戦、争、ノ、情、慾、消、滅、ス、ル、ニ、ア、ラ、サ、レ、ハ、完、全、ノ、自、由、完、全、ノ、幸、福、ヲ、來、シ、容、易、ニ、世、界、万、國、人、民、ノ、希、望、ス、ヘ、キ、所、ニ、ア、ラ、ザ、ル、ナ、リ、豈、ニ、長、大、歎、息、セ、サ、ラ、ン、ト、ス、ル、モ、得、レ、ヤ、今、歐、洲、諸、國、ノ、年、々、費、ス、所、ノ、軍、費、ト、其、歳、出、ヲ、掲、ク、レ、ハ、左、ノ、如、シ、

國、名	歳、出、總、額	陸、海、軍、費	國、名	歳、出、總、額	陸、海、軍、費
-----	---------	---------	-----	---------	---------

白耳義	丁林	日耳曼	佛蘭西	塊地利匈加牙	葡葡牙	露西亞	希臘	英吉利	意大利	西班牙	瑞典	土耳其	希臘
一、五三三、七八八	三三二、四六〇	九九、六五六、三三二	二〇八、八三三、七九四	七五、〇九二、三三九	七、八三三、九四一	一〇三、四九四、五五五	一、六四〇、〇〇〇	八二、四八六、四七三	五六、五〇七、二九〇	三三、六六五、四一六	四、六四〇、四九四	二、五九四、一六四	四、四三四、二二二
一、六四〇、〇〇〇	七〇、四〇〇	三、九八五、〇五三	三、三三二、一四八	一三、四三三、〇六八	三、三三二、四八〇	三三、六六〇、三〇四	四、四三四、二二二	二六、〇三四、二三五	一〇、四三四、八四三	六、三三二、四一四	二、一八九、八三三	四、四四〇、〇〇〇	三、七三三、八七九

但封度ヲ單位トス千八百八十一年ノ調ナリ

期ク巨大ノ費用ヲ支出シテ軍事ヲ擴張スルハ抑モ如何ノ
 日ク内國事アルハ日ニ於テ政府ノ説諭威令ニ因リ之ヲ鎮
 定スル能ハサルノ時ニ當リテ兵力ヲ以テ之ヲ鎮制センカ
 爲メナルカ曰ク外國兵力ヲ以テ我ニ迫ルハ時ニ當リ之ヲ

防禦スルカ爲メナルカ曰ク人民ノ海外ニ出テ、通商貿易
 ヲ爲ス者ヲ保護スルカ爲メナルカ此疑問ヲ掲テ來テ世
 人咸ク之ニ答テテ云ハシ國海陸軍ヲ備テルハ内國事
 ナルヨリ當ニ軍兵方數以テ之ヲ鎮定スル爲メナルヨリ
 外國ノ侵入ヲ防禦スル爲メナルヨリ又外國トテ通
 商貿易ヲ保護スルカ爲メナルヨリ此三者ヲ相合シテ
 始メテ海陸軍ヲ備テル必要ニ生ズルモノナリト憲ニ世
 界各國ノ陸海軍ヲ備テル所以ニ據ルハ此等ノ必要アルカ
 故ニテ云フシテ況ンヤ今日文明ノ鼎盛タル智力富力兵力ノ
 三善ノ壓制ノ兵ニテ云フヤ自由ノ兵ナリ壓制ノ富ニテ
 云フヤ自由ノ富ナリ特ニ今代ニ智識政府ニ中心ニ歸
 本ル者以テ云フヤ大社會ニ般ニ分布シテ居ルモノナリ然レバ

夫々徳力之必要ヲ感スル者ノ少ナキヤ所謂西洋ノ文明ハ
 蒸氣電信ノ二者ヨリ止マレトスル皮相論者ノ多キニ由レリ
 噫嗟智奮兵三者ノ上ニ戴ク所ノ冠冕ナル徳力ナクハ其
 文明モ亦々恃ルニ足ラサルナリ何レベテロブノ二舞ヲ大
 衆ノ愚ナクシテラシムルヲシテ且ツ解キ又繕フカ如
 キハ古代ニ於テ婦人ノ事蹟豈ニ今世ノ蒸氣時代ニ於テ
 軍事ノミヲ熱心スルモノト何レ相擇ハシヤ彼ノ北米合衆
 國ノ如キ五千餘萬ノ人口ト廣大ノ土地ヲ有スト雖也平時
 於テ外ル常備兵ハ僅カニ二万五千人ニ過キス然ルモ尙能
 大内秩序ヲ保テ外國威ヲ損セサルニアラズヤ唯徒ラ軍
 事ヲ強盛ニ望ムルハ人ノ賢愚ヲ問ハズシテ身體ヲ強大ナル
 事ヲ欲スルニ似タリ愚モ亦甚クカラスヤ

千八百八十四年四月十八日瑞西ベルン府ニ開キシ万国仲
 裁媾和協會ノ第四會ニ於テ有名ナルスワルトンハ歐洲ノ
 軍備ハ國民ノ重擔ナリト述ヘテ曰ク歐洲ノ軍備ハ平時ニ
 於テ五百九十万人ニシテ戰時ニ一千三百八十四万一
 千人ニ増加スルニ及過去二十年間之ニ係ル歐洲ノ經費ハ
 三億八千九百万磅ヨリ七億二千九百万磅ニ増加シ其國債
 六千六百六十六万五千六百磅ヨリ四十六億一千二百三十二万
 六千磅ニ増加スルニ及リ而シテ斯ク夥多ナル軍費ハ曾テ歐洲
 ノ平和ヲ維持スルニ効テ奏セシトナシ之ヲ實例ニ證セシ
 事ハ八百年前五年以來歐洲ノ戰爭ニ實ニ六回ニシテ人命ヲ
 損シテ四十四万三千五百人財ヲ費スルニ八億千三百二十
 万磅ナリト今又近年世界大戰爭ノ死傷及費用ヲ左ニ示ス

九十八
軍費(百万)

戰死人数	軍費(百万)
古里米亞ノ役	八五、〇〇〇
伊太利ノ役(千八百五十九年)	一五、〇〇〇
「シレスウカヒ、ホルヌタイメ」ノ役	一、七五〇
亞米利加南北ノ役	三五〇、〇〇〇
普佛伊三國ノ戰(千八百六十六年)	一六、五〇〇
米其西哥、交趾、摩路哥、ハラゲト等ノ遠征	一〇、〇〇〇
普佛ノ戰(千八百七十年)	一二五〇、〇〇〇
ホルガリト、アルメニヤノ亂	—
合計	六〇三、二二五

表中戰死ノ内ニハ負傷後死亡セシ者及ヒ戰地疫癘ノ爲メニ死セシモノヲ算入ス

又軍費ハ佛國ノ「フランス」ヲ以テ之ヲ算ス
 斯ク夥多ノ人命ヲ損メ巨萬ノ軍費ヲ支出シテ其利益スル
 所ハ果シテ奈何ノ因ク得失相償セサルヤ必セリ特ニ過去
 十年間ニ城堡新築ノ爲メニ費シタルハ獨逸アルザスル
 州ニ大率一億圓圓塊地利匈加牙ニ於テクアラマヒ
 一州及ヒガリシ州ニテ八百萬圓伊太利ニ於テハ千八
 百七十二年以後ニ三百三十萬圓佛蘭西ハ千八百七十二
 年同七十九年ニテ八千萬圓ナリト豈ニ是レ輕ク觀ス
 ハキニアラサルモナリ
 是故ニ古代野蠻ノ社會ハ兵力壓制ノ社會ニシテ其社會ノ
 精神ハ專ラ尙武ノ一点ニ在リ之ニ反シテ今代文明ノ社會
 ハ攻撃防守ノ兵事ヲ專トセス社會ノ工業貿易人民ノ自由

權利ヲ保護スルノ目的ニ外ナラズ然ルニ何ソ圖ラシテ文明
 ナ説キ開化ヲ唱ヘナカラ軍事ニシテ熱心擴張スルハ文明
 ノ假面ヲ粧フテ内ニ壓制併呑ノ兵力ヲ養フモノナラズヤ
 果シ然ハ未ダ古代野蠻蒙昧ノ風習ヲ遺存シ兵力ヲ以テ利
 害ヲ争ヒ勝敗ヲ以テ是非ヲ決シ他國ノ侵入ヲ防クネ名ト
 シ陸軍ヲ擴張シ名ハ沿海ノ防禦ト云フモ其實ハ他國ヲ押
 領スルカ爲メニ海軍ヲ盛大ニスル今日ヨリ甚シキハナシ
 露西亞ニハ「イノチ」厚ノ鋼鐵艦ヲ造レハ英吉利ハ之ニ對ス
 ルニ「イノチ」厚ノモノヲ以テシ佛蘭西ニ常備兵ヲ増加ス
 レハ日耳曼モ亦之ヲ増シ年々歳々國ノ武備ヲ増シ日ニ月
 ニ世界ノ財寶ヲ徒費シ人命ヲ損シ其名ハ天下泰平萬民鼓
 腹ト云フト雖モ其實ハ余カ所謂文明ノ假面ヲ粧フテ壓制

併呑ノ兵力ヲ養フモノナリ特ニ露西亞ノ如キハ亞細亞ノ
 南部ニ向テ漸々其版圖ヲ擴張シ今や中央亞細亞ニ出沒シ
 テ侵奪ノ策ヲ施サントシ曩キニ葛加制ノ地方ニ侵入シ遂
 ニ「基革」ヲ併呑シ益々南シテ「メル」ノ要都ヲモ亦其有ニ歸
 セリ然ラハ英國政府ハ之ヲ忽諸ニ付シ露國ノ爲ス所ニ任
 スハキコトナシ若シ英露ソ兩國ニシテ互ニ「ア」カ「カ」ス
 シノ地ヲ争フニ至ラハ殺氣凜然トシテ妖雲歐亞ノ間ニ横
 ハリ一活劇ヲ演スルヤ必セリ是レ畢竟英露兩國ノ互ニ強
 兵ヲ持シテ併呑ノ慾ヲ恣ニセントスルモノナリ彼ノ「ア」
 ルト「ソ」ノ所謂夥多ノ軍備ハ平和ヲ維持スルニ「ア」ラ「ソ」テ
 却テ戦乱ヲ醸スル基ヒナリトハ夫レ此レノ謂乎
 然レモ今日ノ大勢ヲ觀察スレバ忽チ軍備ヲ廢スル「ア」ハ

サルノミナラス却テ之レカ擴張ヲオサ、ルヲ得サルノ有
 様アリト雖モ兵器精鍊益々進歩スレハ戦乱随テ減少スヘ
 シ况ンヤ宇内ノ邦國戦争ノ不利ニシテ損害多キヲ了解ス
 レハ誰レカ好ンテ之ヲ爲ズモノアラヤ又誰レカ戦争ヲ
 ノミ好ンテ完全ノ自由完全ノ幸福ヲ希ハサルモノアラヤ
 ヤ故ニ今日ニ於テ尙ホ戦争ノ絶ヘサルハ未ダ人々腦裡ニ
 野蠻ノ餘習ヲ遺存シテ勃々禁スル能ハサルヨリ出ツルモ
 ノニ外ナラス是ヲ以テ此ノ餘習ヲ吾人ノ腦裡ヨリ放逐シ
 去テ真正ノ平和ヲ求メサル可ラスト雖モ果シテ未來戦争
 止シテ再ヒ干戈ヲ弄スルコトナキノ日アルヘキ歟是レ即チ
 人心ヲ合一シ得ルノ勢力アル宗教宇内ニ流布スルニ至リ
 同情同感ヲシテ同愛同心ニ感化セシムルコト愈ヨ深ケレハ

逐ニ戦争ヲシテ跡ヲ社會ニ斷絶セシムルニ至ルヘシ嗚呼
 戦争ハ忌ムヘク嫌フヘシ夫レ此ノ狂惡ナル害物ヲ人類社
 會ヨリ放逐スルニアラサルヨリハ自由モ幸福モ完全ナル
 コト能ハサルナリ試ミニ望ンテ前途ヲ見ヨ黄金世界ハ遠ク
 天涯ニ髣髴スルノ状ハ恰モ蜃樓ノ如シ是レ其出沒隱顯
 スルニアラスシテ吾人之レニ對スル位置ノ進退アルカ爲
 メナリ何ントナレハ徳力ノ必要ヲ感シテ位置ノ進ムルキ
 ハ吾人ノ腦裡一ノ感覺ヲ起シ來リ黄金世界ニ近クノ思チ
 ナセリ然レモ徳力ノ必要ヲ思ハス世ノ風潮ニ制セラレテ
 心ノ目眩惑スルキハ妖雲之ヲ掩フテ黄金世界忽チ沒隱ス
 ルニ至ル是ニ由テ之ヲ觀レハ徳力ノ必要ヲ感シテ之ヲ智
 富兵三者ノ上ニ冠スルニ至ラハ戦争ノ災害蓋シアラサル

ハシ此盛大ナル理想鏡ハ豈ニ又愉快ナラスヤ
百四

世界未來記 大尾

明治十八年二月十七日版權免許
同 年三月 日出版

定價五十錢

1.10

著述人

東京府士族

蒲

生

俊

東京四谷區四谷仲町
三丁目七番地

出版人

東京府士族

喜

多

島

喜

三

郎

全本郷區本郷壹丁目
七番地



發兌元

東京本郷區本郷壹丁目七番地

尙

成

堂

印刷所

全京橋區西紺屋町廿六番地

秀

英

舍

大賣捌所

東京芝三島町

山中市兵衛

全銀座四丁目

博聞社

大坂千葉浦和

同分社

東京南鍋町

兔屋誠

大坂心齋橋通順慶町

同支店

頁数

一 十七 十八 二二 三五 四五 四七 四九 五〇 五三

正誤表

一 任の初め誤
 二 人種の誤
 三 瑞曲の瑞典の誤
 四 懐妊の誤
 五 欲の誤
 六 欲の誤
 七 欲の誤
 八 欲の誤
 九 欲の誤
 十 欲の誤
 十一 欲の誤
 十二 欲の誤
 十三 欲の誤
 十四 欲の誤
 十五 欲の誤
 十六 欲の誤
 十七 欲の誤
 十八 欲の誤
 十九 欲の誤
 二十 欲の誤
 二十一 欲の誤
 二十二 欲の誤
 二十三 欲の誤
 二十四 欲の誤
 二十五 欲の誤
 二十六 欲の誤
 二十七 欲の誤
 二十八 欲の誤
 二十九 欲の誤
 三十 欲の誤
 三十一 欲の誤
 三十二 欲の誤
 三十三 欲の誤
 三十四 欲の誤
 三十五 欲の誤
 三十六 欲の誤
 三十七 欲の誤
 三十八 欲の誤
 三十九 欲の誤
 四十 欲の誤
 四十一 欲の誤
 四十二 欲の誤
 四十三 欲の誤
 四十四 欲の誤
 四十五 欲の誤
 四十六 欲の誤
 四十七 欲の誤
 四十八 欲の誤
 四十九 欲の誤
 五十 欲の誤
 五十一 欲の誤
 五十二 欲の誤
 五十三 欲の誤

7610
12

43146

- 五八 二 基督の教の字の術
- 六〇 五 万事万物の万事万物
- 七一 二 然然の然然
- 七八 一 二 手取の事
- 一〇三 四 黄金の事
- 同 七 位置の事

田島象二君序大久保櫻洲君校閱加藤鉄太郎君抄譯并評
 洋装密繪入全一冊
 定價七十錢

妖怪府

此書ハ有名ナル小説稗史ノ類ヨリ抄譯セシ者ニテ彼
 牡丹燈金鳳釵等ノ怪異ヲ始メ人獸相交リ神人相會ス
 ルノ奇事異行ヲ舉テ之ヲ壯快悲愴ナル筆力ニ假リテ
 譯出セシ所ノ者ナリ看官若シ夜雨孤燈ノ下ニ獨座シ
 テ此書ヲ讀マハ如何ニ大膽不敵ノ剛者ト雖モ忽地ニ
 心死魂褫ル、ニ至ラン世間大膽ヲ以テ自任スルノ剛
 者ヨ宜シク此書ヲ繙キ以テ其膽力ノ強弱ヲ試ミ賜ヘ



中江篤介君序 甲田良造君序 富本豊前椽著

一二三弦譜

一名三味線獨警古 洋裝美本全一冊

秋用種樹君跋

東京流行粹誌

近刻 但每月出版

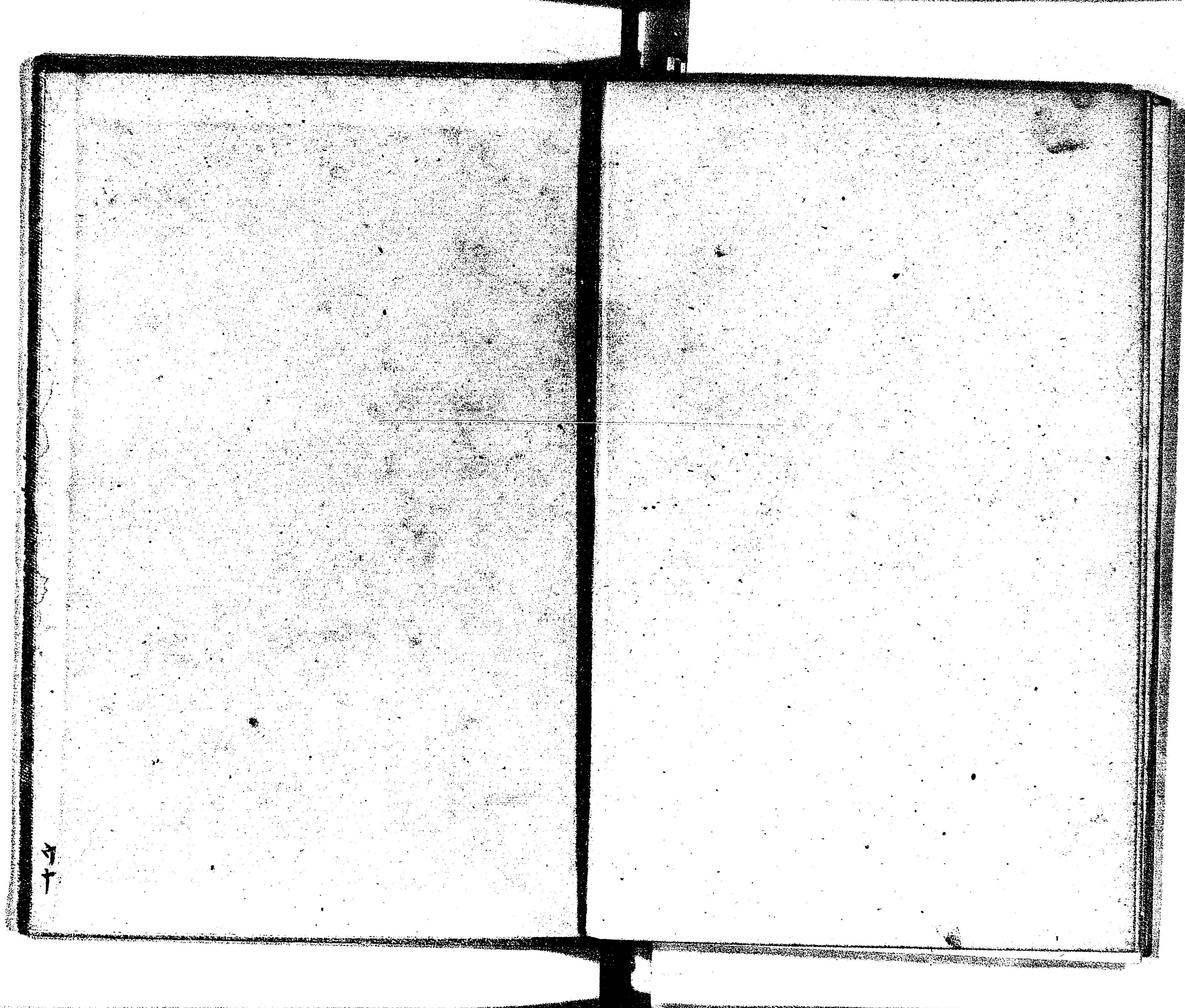
此書ハ東京流行ノ粹ヲ集メテ之ヲ刊行スルニシテ其ノ趣ヲ示ス

其ノ中ニ金魚燈籠ノ類ノモノハ人ヲ驚カセテ其ノ趣ヲ示ス

此書ハ東京流行ノ粹ヲ集メテ之ヲ刊行スルニシテ其ノ趣ヲ示ス

一二三弦譜

近刻 但每月出版



14

